専修学校・各種学校の現状

昭和53年現在

昭和54年6月

財団法人 専修学校教育振興会
専修学校・各種学校の現状

——昭和53年現在——

財団法人 専修学校教育振興会
序

昭和51年に専修学校が発足して、今年は4年目になりました。発足時には1,000校程度を数えていた専修学校も年々増加し、現在では2千数百度に達し、教育界におけるその地位は確固として定着し、評価は高まりつつあります。これからが内容充実と発展の時期にあると考えます。

この時期に当たり大切なことは、専修学校の現状がどうなっているのかを、正確な調査資料にもとづいて把握し、理解することだと思います。その趣旨にもとづき、昨年、昨年に全国専修学校各種学校総連合会では、全国の私立専修学校のすべてを対象とした実態調査を行い、その結果をまとめて公表しました。

昭和53年度も、前年に引き続き調査を行い、その調査結果をまとめ解釈したのが本報告書です。なお、52年12月には、文部省から専修学校・各種学校についての基本調査が速報として公表されていますので、その解説も含めました。

そこで、本報告書は次の二つの解説によって構成されています。

(1) 昭和53年度専修学校各種学校調査（文部省学校基本調査より）
(2) 昭和53年度私立専修学校実態調査（専修学校教育振興会調査）

振興会の実施した調査票の集計については、集計表作成までのすべてを、駿台ソフトウェアセンターに委託し、なお、解説は、全国専修学校各種学校総連合会の関口義参与が当たりました。

以上、関係者各位の活用を大いに期待する次第です。

昭和54年6月

財団法人 専修学校教育振興会
目次

昭和53年度専修学校・各種学校の現状………………………………… 1
——文部省基本調査から——

私立専修学校の現状………………………………………………………29
——昭和53年度私立専修学校実態調査から——
昭和53年度専修学校・各種学校の現状
—文部省基本調査から—

昭和53年度の専修学校・各種学校の現状に関する速報が、53年12月に文部省から発表された。
以下、同速報により、53年5月末日現在の専修学校・各種学校の学校数、教員数、生徒数等について、全国的展望のもとにその現状を解説する。

1. 正規の学校と比較した専修学校・各種学校の現状

第1表は、昭和53年現在の専修学校・各種学校を含めて、全国の各段階、各種類の学校数、教員数、生徒数と、それら相互の関係を比率で示したものである。この表にもとづいて、正規の諸学校と比較して、専修学校・各種学校がどのような現状を示しているのかを考察する。

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校名</th>
<th>学校数</th>
<th>生徒数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>幼稚園</td>
<td>14,227</td>
<td>97,551</td>
</tr>
<tr>
<td>小学校</td>
<td>24,826</td>
<td>445,719</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td>10,777</td>
<td>247,732</td>
</tr>
<tr>
<td>高等学校</td>
<td>5,098</td>
<td>233,936</td>
</tr>
<tr>
<td>高等専門学校</td>
<td>64</td>
<td>3,734</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>519</td>
<td>16,028</td>
</tr>
<tr>
<td>大学</td>
<td>433</td>
<td>98,173</td>
</tr>
<tr>
<td>特殊学園</td>
<td>685</td>
<td>25,197</td>
</tr>
<tr>
<td>専修学校</td>
<td>2,253</td>
<td>18,219</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>64,626</td>
<td>1,214,225</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>教員数</th>
<th>本務者</th>
<th>一学校当たり教員数（本務者）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>幼稚園</td>
<td>97,551</td>
<td>6.9</td>
</tr>
<tr>
<td>小学校</td>
<td>445,719</td>
<td>18.0</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td>247,732</td>
<td>23.0</td>
</tr>
<tr>
<td>高等学校</td>
<td>233,936</td>
<td>5.9</td>
</tr>
<tr>
<td>高等専門学校</td>
<td>3,734</td>
<td>58.3</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>16,028</td>
<td>30.9</td>
</tr>
<tr>
<td>大学</td>
<td>98,173</td>
<td>226.7</td>
</tr>
<tr>
<td>特殊学園</td>
<td>25,197</td>
<td>36.8</td>
</tr>
<tr>
<td>専修学校</td>
<td>18,219</td>
<td>8.1</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,214,225</td>
<td>18.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校数</th>
<th>本務教員一人当たり生徒数</th>
<th>一学校当たり平均生徒数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>幼稚園</td>
<td>25.6</td>
<td>175.6</td>
</tr>
<tr>
<td>小学校</td>
<td>25.0</td>
<td>449.0</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td>20.4</td>
<td>468.4</td>
</tr>
<tr>
<td>高等学校</td>
<td>18.9</td>
<td>866.0</td>
</tr>
<tr>
<td>高等専門学校</td>
<td>12.5</td>
<td>728.7</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>23.7</td>
<td>732.8</td>
</tr>
<tr>
<td>大学</td>
<td>19.0</td>
<td>4300.8</td>
</tr>
<tr>
<td>特殊学園</td>
<td>2.9</td>
<td>26.0</td>
</tr>
<tr>
<td>専修学校</td>
<td>22.3</td>
<td>180.5</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>21.7</td>
<td>412.5</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※未発表のため未記入

—1—
まず、学校数については、義務教育段階に相当する小学校が24,826校を数えてもっとも多く、以下、幼稚園、中学校、各種学校、高等学校、専修学校とつづいている。発大や大学は学校数では少ないが、合わせて652校である。幼稚園、専修学校・各種学校は、他の種類の学校に比較して小規模であり、設置と運営が比較的容易であるところからこのような実情を示しており、専修学校と幼稚園とでは、1学校当たり平均生徒数、180人程度もあり得るように、学校規模はほぼ同程度である。

教員数については、各校とも本務者、兼務者別に算出している（ただし、各種学校の兼務教員数については、未公表のため掲載していない）。本務教員数では、日本の全学校の教員全員が、121万4,225人である。学校別には小学校がもっとも多く44万5,719人、ついで中学校24万7,732人であり、義務教育の学校の教員数で70万人近くを数え、全教員数の6割近くを占めている。ついで高等学校が23万人、大学と幼稚園はそれぞれ10万人近くである。各種学校の本務教員数2万7,936人、専修学校は1万8,219人で、合わせて4万6,155人である。また、短期大学よりも専修学校の本務教員数が若干上まわっている。

他方、兼務教員数についてみると、本務教員数の場合は大きく異なるが、大学と専修学校が多い。幼稚園や義務教育機関である小学校、中学校では少ない。発大は2万人をこえ、高校では4万人近くとなっている。概して教育段階が高くなるほど全教員数のなかで兼務教員の占める比率は高くなっている。専修学校では、兼務教員数が本務教員数の3倍近くと、兼務教員主導型の教員構成であり、発大でも、兼務教員が本務教員を上まわっている。また大学でも、全教員数の4割を兼務教員が占めている。いずれの学校も、私学の占める比率が高く、学校経営や教科構成の実情から、兼務教員の占める比率が高くなっているものと思われる。1学校当たり本務教員数は、各学校の規模とはほぼ比例した関係にあるが、大学が最も多く227人、ついで専修学校が8人、発大7人、各種学校5人で少ない。1学校当たり兼務教員数では、幼・小・中の各学校ではごく少ないが、大学、発大、専修学校など高等教育段階に属する諸学校では多くなっている。

生徒数では、全国の各学校に在学する生徒総数2,665万6,571人である。小学校1,100万人以上、中学校500万人以上、高校440万人以上、小・中・高校の生徒総数2,000万人以上、ついで幼稚園250万人、大学186万人である。専修学校は40万人を超え、発大学生数38万人を若干上まわっている。各種学校は78万人である。次に男女別生徒数、およびその構成比をみると、幼稚園、小学校、中学校、高等学校とも男子が多いがほぼ同数程度である。各種学校については、実数では女子が7万人近く多いが、予備学校生徒数の男子が多いため、男子生徒数もかなり多くなっている。これらに対し、発大、発大、発大、専修学校ではこの構成比は異なっており、発大、大学では男子の占める比率が高い。これとは反対に、発大と専修学校では女子の占める比率が高く、この点に関しては発大と専修学校とは、共通した特長がみられる。本務教員1人当たり生徒数では、発大学校の場合は例外として、いずれの学校も20人前後から30人までとなっている。それらの中で也国立の多い発大では12.5人と少ない。小学校は25人、高専と大学は19人、発大24人、専修学校22人となっている。各種学校はもっとも多く28人を数えている。1学校当たり平均生徒数は、学校規模
を示す指標であるが、各学校ごとに大きな相違を示している。大学が4,300人で大規模であり、ついて高等学校866人、短大、高等専門学校ともに700人台、小･中学校は400人台となっている。幼稚園、専修学校・各種学校は規模が小さく、いずれも100人台である。

2. 私立学校の中で占める専修学校・各種学校の位置

専修学校・各種学校の中には、国立、公立の学校もあるが、大多数は私学である。ここでは、各段階の私立学校の中で占める専修学校・各種学校の位置について検討する。第2表は私立の各学校について、学校数、教員数、生徒数を示したものである。

学校数では、全国の私立学校総数1万8,621校である。各学校別には幼稚園が最も多く、8,407校、ついて各種学校5,542校、専修学校1,949校となっており、これらを合わせると全私立学校の85%を占めている。

教員数については、私立学校の本務教員総数25万3,692人である。学校別に最も多いのは幼稚園

第2表 私立学校の学校数、教員数、生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校数</th>
<th>教員数</th>
<th>生徒数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学校数</td>
<td>計</td>
<td>本務</td>
</tr>
<tr>
<td>幼稚園</td>
<td>8,407</td>
<td>74,497</td>
</tr>
<tr>
<td>小学校</td>
<td>166</td>
<td>3,147</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td>551</td>
<td>13,226</td>
</tr>
<tr>
<td>高等学校</td>
<td>1,235</td>
<td>70,507</td>
</tr>
<tr>
<td>高等専門学校</td>
<td>6</td>
<td>311</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>436</td>
<td>32,123</td>
</tr>
<tr>
<td>大学</td>
<td>313</td>
<td>87,781</td>
</tr>
<tr>
<td>特殊学校</td>
<td>16</td>
<td>206</td>
</tr>
<tr>
<td>専修学校</td>
<td>1,949</td>
<td>65,973</td>
</tr>
<tr>
<td>各種学校</td>
<td>5,542</td>
<td>26,901</td>
</tr>
</tbody>
</table>

| 計 | 18,621 | ※ |

<table>
<thead>
<tr>
<th>生徒数</th>
<th>計</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>幼稚園</td>
<td>1,843,257</td>
<td>943,419</td>
<td>899,838</td>
<td>29.7</td>
</tr>
<tr>
<td>小学校</td>
<td>59,328</td>
<td>22,641</td>
<td>36,687</td>
<td>0.9</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td>154,402</td>
<td>60,108</td>
<td>94,294</td>
<td>2.5</td>
</tr>
<tr>
<td>高等学校</td>
<td>1,248,180</td>
<td>570,962</td>
<td>677,218</td>
<td>20.1</td>
</tr>
<tr>
<td>高等専門学校</td>
<td>3,495</td>
<td>3,495</td>
<td>一</td>
<td>0.1</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>347,359</td>
<td>31,167</td>
<td>316,192</td>
<td>5.6</td>
</tr>
<tr>
<td>大学</td>
<td>1,419,598</td>
<td>1,108,061</td>
<td>311,537</td>
<td>22.8</td>
</tr>
<tr>
<td>特殊学校</td>
<td>756</td>
<td>456</td>
<td>300</td>
<td>0.0</td>
</tr>
<tr>
<td>専修学校</td>
<td>374,359</td>
<td>117,553</td>
<td>256,806</td>
<td>6.0</td>
</tr>
<tr>
<td>各種学校</td>
<td>764,545</td>
<td>353,186</td>
<td>411,359</td>
<td>12.3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

| 計 | 6,215,279 | 3,211,048 | 3,004,231 | 100.0 |

※未発表のため未記入
7万1,087人、ついで高校、大学の順で4万5,120人である。専修学校・各種学校は合わせて4万5,120人である。兼務教員数では、大学について専修学校が多く、短大、高校がそれぞれ1万8,000人以上を数えている。

生徒数では、幼稚園184万人がもっとも多く、ついで大学142万人、高校125万人、専修学校・各種学校は合わせて115万人で、高校にはほとんど数えない。専修学校生徒数は、短大生数よりも若干上まわっている。

以上のように、数的にみても、専修学校・各種学校は私立学校のなかで大きな比重を占めている。

3. 設置者別にみた専修学校・各種学校の現状

専修学校・各種学校の現状を国立、公立、私立の設置者別に、学校数、教職員数、生徒数として示したのが、第3表である。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>専修学校</th>
<th>各種学校</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学校数</td>
<td>教職員数</td>
<td>生徒数</td>
</tr>
<tr>
<td>国立</td>
<td>190</td>
<td>731</td>
</tr>
<tr>
<td>公立</td>
<td>114</td>
<td>1,021</td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>1,949</td>
<td>16,467</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>2,253</td>
<td>18,219</td>
</tr>
</tbody>
</table>

まず専修学校の学校数についてみると、総数2,253校、設置者別には、私立が1,949校（86.5%）と多数を占めている。ついで国立190校（8.4%）である。国立の専修学校は、看護学校をはじめ診療放射線などすべて医療系の学校である。専任教員数は1万8,219人、設置者別には学校数と同じように、私立が最も多く1万8,219人で、設置者別には、学校数と同様に私立が最も多く90.4%を占めている。生徒数は総数40万6,613人であり、うち私立専修学校生徒数は57万4,359人で、全体の92%を占めている。昨年と比較すると学校数で311校、教員数で2,416人、生徒数で4万9,364人増加している。

各種学校は学校数5,744校のうち、私立は5,542校（96.5%）と多数を占め、公立189校、国立13校とわずかである。専任教員数は2万7,936人でまとめて私立各種学校の教員である。生徒数は総数78万人のうち76万人以上は私立であり、国・公立は合わせて2万人未満である。昨年と比較すると、学校数で358校、教員数で2,506人、生徒数で8万9,038人減少となっており、これらの減少分は、専修学校への移行にともなうものと思われるが、生徒数の減少は、専修学校の増加分をさしきいつても4万人を超えており、各種学校生徒の減少傾向を示すものであろう。

第4表は、設置者別に教職員の実情を示したものである。まず専修学校では、国・公・私立の教員、職員とも多くなっている。各種学校では、私立の場合男子教員が多い。専修学校・各種学校の本務教員総数4万6,155人、職員が2万人弱、合わせて6万5,685人の教職員数である。

第5表は、設置者別、男女別に専修学校・各種学校生徒数を示したものである。専修学校生徒数は、女子が28万6,947人であるのに対し、男子は約12万人であり、女子の占める比率が高い。

---4---
第4表 設置者別、男女別、教職員数（本務者）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>専修学校</th>
<th>各種学校</th>
<th>計（専修学校、各種学校）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>教員数</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>国立</td>
<td>18,219</td>
<td>6,004</td>
<td>12,215</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>731</td>
<td>160</td>
<td>571</td>
</tr>
<tr>
<td>公立</td>
<td>1,021</td>
<td>100</td>
<td>921</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16,467</td>
<td>5,744</td>
<td>10,723</td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>7,849</td>
<td>2,928</td>
<td>4,921</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>256</td>
<td>65</td>
<td>191</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>692</td>
<td>281</td>
<td>411</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>6,901</td>
<td>2,582</td>
<td>4,319</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第5表 設置者別、男女別、生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>専修学校</th>
<th>各種学校</th>
<th>計（専修学校、各種学校）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>計</td>
<td>406,613</td>
<td>119,666</td>
<td>286,497</td>
</tr>
<tr>
<td>国立</td>
<td>15,724</td>
<td>1,473</td>
<td>14,251</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16,530</td>
<td>640</td>
<td>15,890</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>374,369</td>
<td>117,553</td>
<td>256,806</td>
</tr>
</tbody>
</table>

各種学校は、生徒総数78万1,031人のうち、女子が42万6,436人、男子が35万4,595人であり、専修学校と比べると、男子の占める比率が高くなっている。専修学校・各種学校の生徒数は、118万7,644人で、昨年度と比べ約4万人の減となっている。

4. 都道府県別にみた専修学校・各種学校の現状

専修学校・各種学校の現状を、都道府県別に示したのが第6表である。専修学校・各種学校の多くは私立であり、学校経営の成り立つところに自由に設置できるので、いずれも人口数の多い県、大都市では多くなっている。

専修学校の数をみると、多いのは東京都の254校をトップに、北海道141校、愛知県126校、大阪府125校、福岡県111校となっている。各県を通じて20校～50校台の県が多く、少ないのは宮崎県10校、沖縄県9校である。生徒数についても、学校数と同様の傾向がみられるが、それよりも高い比率で大都市にある都府県での生徒数が多い、東京は11万2,624人で全体生徒数の28%を占めている。ついて、大阪府と大阪市が総数2万人台である。他方、生徒数1,000人前後のところでも数県みられる。1校当たり平均生徒数では、大都市の都府県が多く、学校規模の大きさを示すものである。東京都の433人をトップに、大阪府298人、愛知県251人、神奈川県198人であり、全国平均では180人となっている。他方、鳥取、島根の県は生徒数60人台である。

各種学校についても、専修学校の場合と同様に、学校数、生徒数ともに都道府県間にかなり差異がみられる。学校数で多いのは、愛知県415校、東京都405校、北海道387校、兵庫県310校となっている。生徒数では、総数78万人のうち、東京は19万人で全体の1/4以上を占めている。ついて大阪府6万1,887人、愛知県5万3,179人である。男女別生徒数では女子の上まわる県が多いが、東
第6表 都道府県別にみた

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校数</th>
<th>専修学校</th>
<th>生徒数</th>
<th>各種</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>生</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2,253</td>
<td>406,613</td>
<td>119,666</td>
<td>286,947</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>141</td>
<td>19,575</td>
<td>5,244</td>
<td>14,331</td>
</tr>
<tr>
<td>青森県</td>
<td>44</td>
<td>4,608</td>
<td>551</td>
<td>4,057</td>
</tr>
<tr>
<td>宮城県</td>
<td>28</td>
<td>2,521</td>
<td>111</td>
<td>2,410</td>
</tr>
<tr>
<td>秋田県</td>
<td>49</td>
<td>8,990</td>
<td>2,810</td>
<td>6,180</td>
</tr>
<tr>
<td>山形県</td>
<td>43</td>
<td>4,360</td>
<td>775</td>
<td>3,585</td>
</tr>
<tr>
<td>福島県</td>
<td>28</td>
<td>3,360</td>
<td>168</td>
<td>3,192</td>
</tr>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>53</td>
<td>5,118</td>
<td>479</td>
<td>4,639</td>
</tr>
<tr>
<td>茨城県</td>
<td>39</td>
<td>4,764</td>
<td>766</td>
<td>3,978</td>
</tr>
<tr>
<td>栃木県</td>
<td>47</td>
<td>4,098</td>
<td>357</td>
<td>3,771</td>
</tr>
<tr>
<td>群馬県</td>
<td>45</td>
<td>5,295</td>
<td>867</td>
<td>4,428</td>
</tr>
<tr>
<td>埼玉県</td>
<td>64</td>
<td>10,023</td>
<td>1,761</td>
<td>8,262</td>
</tr>
<tr>
<td>東京都</td>
<td>78</td>
<td>9,909</td>
<td>1,225</td>
<td>8,684</td>
</tr>
<tr>
<td>神奈川県</td>
<td>254</td>
<td>112,624</td>
<td>48,308</td>
<td>64,316</td>
</tr>
<tr>
<td>新潟県</td>
<td>59</td>
<td>11,686</td>
<td>4,648</td>
<td>7,038</td>
</tr>
<tr>
<td>富山県</td>
<td>60</td>
<td>6,825</td>
<td>949</td>
<td>5,876</td>
</tr>
<tr>
<td>石川県</td>
<td>32</td>
<td>3,676</td>
<td>439</td>
<td>3,237</td>
</tr>
<tr>
<td>福井県</td>
<td>22</td>
<td>1,739</td>
<td>282</td>
<td>1,457</td>
</tr>
<tr>
<td>山形県</td>
<td>17</td>
<td>1,569</td>
<td>238</td>
<td>1,331</td>
</tr>
<tr>
<td>長野県</td>
<td>11</td>
<td>1,194</td>
<td>351</td>
<td>843</td>
</tr>
<tr>
<td>金沢市</td>
<td>32</td>
<td>2,621</td>
<td>188</td>
<td>2,433</td>
</tr>
<tr>
<td>神奈川県</td>
<td>25</td>
<td>3,763</td>
<td>416</td>
<td>3,347</td>
</tr>
<tr>
<td>海部郡</td>
<td>20</td>
<td>2,253</td>
<td>206</td>
<td>2,047</td>
</tr>
<tr>
<td>京都市</td>
<td>41</td>
<td>7,275</td>
<td>2,657</td>
<td>4,618</td>
</tr>
<tr>
<td>大阪府</td>
<td>125</td>
<td>37,312</td>
<td>15,070</td>
<td>22,242</td>
</tr>
<tr>
<td>奈良県</td>
<td>58</td>
<td>11,288</td>
<td>2,689</td>
<td>8,599</td>
</tr>
<tr>
<td>和歌山県</td>
<td>30</td>
<td>5,010</td>
<td>130</td>
<td>4,880</td>
</tr>
<tr>
<td>鳥取県</td>
<td>17</td>
<td>1,323</td>
<td>102</td>
<td>1,221</td>
</tr>
<tr>
<td>岡山県</td>
<td>22</td>
<td>1,372</td>
<td>126</td>
<td>1,246</td>
</tr>
<tr>
<td>広島県</td>
<td>13</td>
<td>874</td>
<td>49</td>
<td>825</td>
</tr>
<tr>
<td>山口県</td>
<td>47</td>
<td>4,550</td>
<td>356</td>
<td>4,194</td>
</tr>
<tr>
<td>徳島県</td>
<td>72</td>
<td>8,941</td>
<td>942</td>
<td>7,999</td>
</tr>
<tr>
<td>香川県</td>
<td>28</td>
<td>3,017</td>
<td>200</td>
<td>2,817</td>
</tr>
<tr>
<td>高知県</td>
<td>21</td>
<td>1,589</td>
<td>186</td>
<td>1,403</td>
</tr>
<tr>
<td>徳島県</td>
<td>22</td>
<td>2,906</td>
<td>1,008</td>
<td>1,897</td>
</tr>
<tr>
<td>高知県</td>
<td>50</td>
<td>5,218</td>
<td>464</td>
<td>4,754</td>
</tr>
<tr>
<td>福岡県</td>
<td>30</td>
<td>1,598</td>
<td>175</td>
<td>1,423</td>
</tr>
<tr>
<td>佐賀県</td>
<td>111</td>
<td>19,224</td>
<td>6,487</td>
<td>12,737</td>
</tr>
<tr>
<td>大分県</td>
<td>24</td>
<td>2,906</td>
<td>762</td>
<td>2,144</td>
</tr>
<tr>
<td>長崎県</td>
<td>27</td>
<td>2,245</td>
<td>211</td>
<td>2,034</td>
</tr>
<tr>
<td>熊本県</td>
<td>42</td>
<td>6,102</td>
<td>2,088</td>
<td>4,014</td>
</tr>
<tr>
<td>大分県</td>
<td>28</td>
<td>3,762</td>
<td>197</td>
<td>3,565</td>
</tr>
<tr>
<td>鹿児島県</td>
<td>10</td>
<td>1,165</td>
<td>22</td>
<td>1,143</td>
</tr>
<tr>
<td>佐賀県</td>
<td>35</td>
<td>3,287</td>
<td>770</td>
<td>2,517</td>
</tr>
<tr>
<td>福岡県</td>
<td>9</td>
<td>991</td>
<td>67</td>
<td>924</td>
</tr>
<tr>
<td>学 校</td>
<td>学 校</td>
<td>一学校当たり平均生徒数</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>-------</td>
<td>-------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----</td>
<td>-----</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>354,595</td>
<td>426,436</td>
<td>135</td>
<td>7,997</td>
<td>1,187,644</td>
</tr>
<tr>
<td>12,714</td>
<td>17,426</td>
<td>77</td>
<td>538</td>
<td>49,715</td>
</tr>
<tr>
<td>1,060</td>
<td>2,711</td>
<td>92</td>
<td>85</td>
<td>8,409</td>
</tr>
<tr>
<td>1,927</td>
<td>3,561</td>
<td>79</td>
<td>97</td>
<td>8,009</td>
</tr>
<tr>
<td>5,108</td>
<td>6,330</td>
<td>106</td>
<td>156</td>
<td>20,428</td>
</tr>
<tr>
<td>2,756</td>
<td>3,711</td>
<td>143</td>
<td>88</td>
<td>10,827</td>
</tr>
<tr>
<td>3,493</td>
<td>4,415</td>
<td>138</td>
<td>85</td>
<td>11,268</td>
</tr>
<tr>
<td>7,465</td>
<td>8,029</td>
<td>206</td>
<td>128</td>
<td>20,612</td>
</tr>
<tr>
<td>1,780</td>
<td>6,168</td>
<td>59</td>
<td>172</td>
<td>12,732</td>
</tr>
<tr>
<td>3,857</td>
<td>8,290</td>
<td>61</td>
<td>245</td>
<td>16,245</td>
</tr>
<tr>
<td>5,490</td>
<td>9,674</td>
<td>110</td>
<td>182</td>
<td>20,459</td>
</tr>
<tr>
<td>12,566</td>
<td>16,465</td>
<td>169</td>
<td>225</td>
<td>39,064</td>
</tr>
<tr>
<td>2,125</td>
<td>5,646</td>
<td>58</td>
<td>211</td>
<td>17,680</td>
</tr>
<tr>
<td>118,236</td>
<td>73,895</td>
<td>474</td>
<td>659</td>
<td>304,755</td>
</tr>
<tr>
<td>4,236</td>
<td>10,173</td>
<td>112</td>
<td>187</td>
<td>26,095</td>
</tr>
<tr>
<td>2,215</td>
<td>3,711</td>
<td>91</td>
<td>125</td>
<td>12,751</td>
</tr>
<tr>
<td>2,094</td>
<td>5,584</td>
<td>89</td>
<td>118</td>
<td>11,354</td>
</tr>
<tr>
<td>3,804</td>
<td>6,879</td>
<td>150</td>
<td>93</td>
<td>12,662</td>
</tr>
<tr>
<td>4,386</td>
<td>7,314</td>
<td>177</td>
<td>83</td>
<td>13,269</td>
</tr>
<tr>
<td>1,037</td>
<td>3,808</td>
<td>91</td>
<td>64</td>
<td>6,039</td>
</tr>
<tr>
<td>2,719</td>
<td>8,209</td>
<td>80</td>
<td>168</td>
<td>13,549</td>
</tr>
<tr>
<td>2,202</td>
<td>7,450</td>
<td>86</td>
<td>137</td>
<td>13,923</td>
</tr>
<tr>
<td>4,939</td>
<td>15,166</td>
<td>68</td>
<td>354</td>
<td>27,866</td>
</tr>
<tr>
<td>22,573</td>
<td>30,606</td>
<td>128</td>
<td>541</td>
<td>84,905</td>
</tr>
<tr>
<td>5,231</td>
<td>10,785</td>
<td>81</td>
<td>221</td>
<td>19,779</td>
</tr>
<tr>
<td>634</td>
<td>2,794</td>
<td>79</td>
<td>63</td>
<td>5,681</td>
</tr>
<tr>
<td>13,318</td>
<td>12,625</td>
<td>183</td>
<td>182</td>
<td>33,218</td>
</tr>
<tr>
<td>36,773</td>
<td>25,114</td>
<td>291</td>
<td>337</td>
<td>99,199</td>
</tr>
<tr>
<td>14,443</td>
<td>24,028</td>
<td>124</td>
<td>368</td>
<td>49,759</td>
</tr>
<tr>
<td>3,921</td>
<td>5,885</td>
<td>106</td>
<td>122</td>
<td>14,786</td>
</tr>
<tr>
<td>5,588</td>
<td>9,137</td>
<td>105</td>
<td>156</td>
<td>16,043</td>
</tr>
<tr>
<td>1,232</td>
<td>2,054</td>
<td>113</td>
<td>51</td>
<td>4,686</td>
</tr>
<tr>
<td>668</td>
<td>1,404</td>
<td>56</td>
<td>50</td>
<td>2,946</td>
</tr>
<tr>
<td>2,311</td>
<td>3,894</td>
<td>81</td>
<td>124</td>
<td>10,845</td>
</tr>
<tr>
<td>5,398</td>
<td>5,483</td>
<td>100</td>
<td>180</td>
<td>19,822</td>
</tr>
<tr>
<td>3,208</td>
<td>6,489</td>
<td>91</td>
<td>133</td>
<td>12,664</td>
</tr>
<tr>
<td>1,117</td>
<td>3,124</td>
<td>77</td>
<td>76</td>
<td>5,830</td>
</tr>
<tr>
<td>969</td>
<td>5,200</td>
<td>62</td>
<td>121</td>
<td>9,144</td>
</tr>
<tr>
<td>1,125</td>
<td>3,904</td>
<td>47</td>
<td>157</td>
<td>10,247</td>
</tr>
<tr>
<td>7,960</td>
<td>1,144</td>
<td>74</td>
<td>59</td>
<td>4,522</td>
</tr>
<tr>
<td>15,904</td>
<td>12,131</td>
<td>150</td>
<td>297</td>
<td>47,259</td>
</tr>
<tr>
<td>8,892</td>
<td>2,653</td>
<td>80</td>
<td>68</td>
<td>6,461</td>
</tr>
<tr>
<td>1,483</td>
<td>3,066</td>
<td>80</td>
<td>84</td>
<td>6,824</td>
</tr>
<tr>
<td>3,130</td>
<td>4,242</td>
<td>105</td>
<td>112</td>
<td>13,474</td>
</tr>
<tr>
<td>1,969</td>
<td>3,363</td>
<td>86</td>
<td>90</td>
<td>9,114</td>
</tr>
<tr>
<td>596</td>
<td>2,670</td>
<td>79</td>
<td>51</td>
<td>4,431</td>
</tr>
<tr>
<td>1,606</td>
<td>3,513</td>
<td>89</td>
<td>92</td>
<td>8,406</td>
</tr>
<tr>
<td>3,287</td>
<td>5,643</td>
<td>168</td>
<td>62</td>
<td>9,921</td>
</tr>
</tbody>
</table>
京、大阪など、大都市の所在する都府県では、男子生徒数が女子をかなり上まわる。これは予備校生徒数が多いためである。なお、1学校当たり平均生徒数では、各種学校は135人であり、専修学校の180人と比較して、45人少なく、小規模校の多いことを示している。

専修学校・各種学校の合計でみると、学校総数7,997校であり、多い順に、東京都659校、愛知県541校、北海道528校である。鳥取、島根、宮崎の3県は50校台で少ない。生徒数では東京が30万人以上で、全体の26％を占めている。ついて大阪府10万人、愛知県8万5,000人の順である。他方、生徒数1万人以下の県も14県を数えている。

5. 専修学校類型別学校数

第7表は専修学校数について、高等課程、専門課程のそれぞれの課程をおく学校数を、設置主体制別にみたものである。専修学校2,253校のうち、専門課程をおく学校数は1,808校と、80.2％を占

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>計</th>
<th>国 立</th>
<th>公 立</th>
<th>私 立</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高等課程を置く学校数</td>
<td>688</td>
<td>41</td>
<td>22</td>
<td>605</td>
</tr>
<tr>
<td>専門課程を置く学校数</td>
<td>1,808</td>
<td>152</td>
<td>95</td>
<td>1,561</td>
</tr>
</tbody>
</table>

めており、大部分の学校が専門課程をおいている。高等課程は、668校であり、29.6％と3割未満である。

6. 専修学校課程別教職員数、生徒数の現状

第8表は専修学校の課程別教職員数を、設置者別、男女別にみたものである。教職員の本務者は、

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>計</th>
<th>国 立</th>
<th>公 立</th>
<th>私 立</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
</tr>
<tr>
<td>専修学校</td>
<td>高等課程</td>
<td>計</td>
<td>6,004</td>
<td>12,215</td>
</tr>
<tr>
<td>専門課程</td>
<td>4,671</td>
<td>8,838</td>
<td>74</td>
<td>493</td>
</tr>
<tr>
<td>一般課程</td>
<td>331</td>
<td>1,230</td>
<td>--</td>
<td>--</td>
</tr>
<tr>
<td>職員数 (本務者)</td>
<td>35,236</td>
<td>15,530</td>
<td>6,941</td>
<td>3,816</td>
</tr>
<tr>
<td>職員数 (兼務者)</td>
<td>2,928</td>
<td>4,921</td>
<td>65</td>
<td>191</td>
</tr>
</tbody>
</table>

男子6,004人、女子1万2,215人、合計1万8,219人であり、女子が男子の2倍以上となっている。课程別の教職員数は、1万3,509人で75％を占めている。高等課程は3,409人、一般課程は1,561人とも、ほぼ各課程ごとの教職員に対応した数となっている。男女別には、特に一般課程で、女子教職員の比率が高い。兼務教職員は男子3万5,236人、女子1万5,530人、合計5万766人で、専任教職員の2.8倍である。兼務教職員の構成比が高い専修学校の特徴が示されているといえよう。職員数は男子2,928人、女子4,921人、合計7,849人であり、1学校当たり平均職員数は3.5人である。これらの教職員数を設置主体別にみると、いずれも、学校数、生徒数で多くを占める私立専修学校
の教職員数が多く、多くを占めている。国立の専修学校で兼務教員数が特に多いのが目立っているが、これは医療系の学校がすべてを占めるためであろう。

第9表は専修学校生徒数を課程別、男女別に示したものである。専修学校生徒数40万6,613人の

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>計</th>
<th>高等課程</th>
<th>専門課程</th>
<th>一般課程</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>在学者</td>
<td>入学者</td>
<td>在学者</td>
<td>入学者</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>406,613</td>
<td>229,206</td>
<td>68,063</td>
<td>34,328</td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>119,666</td>
<td>75,533</td>
<td>14,248</td>
<td>8,177</td>
</tr>
</tbody>
</table>

うち、男子は11万9,666人（29.4％）、女子28万6,947人（70.6％）で、女子生徒数が7割以上を

占めている。このうち53年4月入学者は22万9,206で、在学生の過半数を占め、また男女別にみると、新規入学者の比率は女子のほうが高い。課程別に、在学者、入学者をみると、まず在学者数では、専門課程が最も多く31万800人（76.4％）と、総数の半数以上を占めている。ついて高等課程6万8,063人、一般課程2万7,750人である。入学者数についても、専門課程が多く、17万5,183人（76.8％）である。さらに、高等課程と専門課程について、入学者のうち、53年3月中卒者、高卒者の占める比率は、それぞれ54.2％、65.0％であり、中卒、高卒後続続して、高等課程、専門課程に入れる者が過半数であるが、旧卒者もかなりの数ののぼっていることは注目してよいであろう。

7. 専修学校生徒数の現状（分野・学科別、学年別、男女別、

課程別、設置者別、昼夜別）

第10表は、専修学校生徒数を分野・学科別に、学科数、学年別、男女別生徒数、課程別、設置主体別、昼夜別生徒数として示したものである。また、第11表、第12表、第13表は、第10表にもとづいて、分野別にまとめて見易くするために、専修学校の分野別学校数、学科数、生徒数と、分野別にみた課程、設置者、昼夜、学年、男女別生徒数と、それらについての百分比を示したものである。

これらの各表にもとづいて、専修学校生徒数の現状をみよう。

(1) 学科を設置する学校数

専修学校の学科を設置する学校数は、注にもあるように、1学校が2分野にわたる場合に2校と計上される。専修学校数2,253校に対し、学科を設置する学校数は3,817校であり、2倍弱を示しているが、2分野にまたがる学校が多くを占めていることを示すものであろう。

(2) 学科数

専修学校の学科数は合計6,096であり、学科数の3倍弱を示している。1校当たり平均3学科であるが、分野別に多いのは家政分野の各学科で総数3,549と、全体の過半数となっている。

(3) 分野別・学科別生徒数

専修学校の生徒総数40万6,613人のうち、最も多いのは家政で12万7,620人（31.4％）、ついて医療9万3,226人（22.9％）、工芸5万7,645人（14.2％）、文化・教養3万8,635人（9.5％）
<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>学科数</th>
<th>うち立</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>1学年</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>計</td>
<td>6,096</td>
<td>5,693</td>
<td>406,613</td>
<td>119,666</td>
<td>286,947</td>
<td>240,003</td>
<td>79,012</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>363</td>
<td>363</td>
<td>57,645</td>
<td>54,243</td>
<td>3,402</td>
<td>36,625</td>
<td>34,285</td>
</tr>
<tr>
<td>剣土電気通信</td>
<td>25</td>
<td>25</td>
<td>3,607</td>
<td>3,549</td>
<td>58</td>
<td>3,243</td>
<td>3,186</td>
</tr>
<tr>
<td>木・建</td>
<td>83</td>
<td>83</td>
<td>16,776</td>
<td>16,019</td>
<td>757</td>
<td>9,696</td>
<td>9,321</td>
</tr>
<tr>
<td>材機</td>
<td>36</td>
<td>36</td>
<td>3,981</td>
<td>3,908</td>
<td>73</td>
<td>2,384</td>
<td>2,322</td>
</tr>
<tr>
<td>動車整備</td>
<td>29</td>
<td>29</td>
<td>5,366</td>
<td>5,359</td>
<td>7</td>
<td>3,445</td>
<td>3,440</td>
</tr>
<tr>
<td>木機械機械</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>1,412</td>
<td>1,410</td>
<td>2</td>
<td>748</td>
<td>748</td>
</tr>
<tr>
<td>会計処理</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
<td>5,860</td>
<td>4,642</td>
<td>1,218</td>
<td>4,211</td>
<td>3,338</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>28</td>
<td>28</td>
<td>4,273</td>
<td>3,667</td>
<td>606</td>
<td>2,999</td>
<td>2,617</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>493</td>
<td>460</td>
<td>33</td>
<td>376</td>
<td>348</td>
</tr>
<tr>
<td>農畜</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>269</td>
<td>237</td>
<td>32</td>
<td>164</td>
<td>137</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>906</td>
<td>546</td>
<td>93,226</td>
<td>17,180</td>
<td>76,046</td>
<td>40,247</td>
<td>7,515</td>
</tr>
<tr>
<td>食育</td>
<td>486</td>
<td>249</td>
<td>48,820</td>
<td>670</td>
<td>48,150</td>
<td>18,544</td>
<td>293</td>
</tr>
<tr>
<td>調理</td>
<td>148</td>
<td>105</td>
<td>17,264</td>
<td>647</td>
<td>16,617</td>
<td>9,323</td>
<td>354</td>
</tr>
<tr>
<td>保健</td>
<td>55</td>
<td>48</td>
<td>6,679</td>
<td>5,583</td>
<td>1,096</td>
<td>3,164</td>
<td>2,664</td>
</tr>
<tr>
<td>歯科護理</td>
<td>43</td>
<td>27</td>
<td>3,718</td>
<td>4,032</td>
<td>1,120</td>
<td>2,208</td>
<td>1,904</td>
</tr>
<tr>
<td>放射線</td>
<td>27</td>
<td>18</td>
<td>2,749</td>
<td>2,642</td>
<td>107</td>
<td>1,152</td>
<td>1,120</td>
</tr>
<tr>
<td>核異常検査</td>
<td>51</td>
<td>39</td>
<td>4,963</td>
<td>3,726</td>
<td>1,233</td>
<td>1,740</td>
<td>1,429</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>1,213</td>
<td>1,131</td>
<td>82</td>
<td>648</td>
<td>614</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>530</td>
<td>503</td>
<td>36,396</td>
<td>13,501</td>
<td>22,895</td>
<td>31,127</td>
<td>11,885</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>24</td>
<td>20</td>
<td>4,974</td>
<td>840</td>
<td>4,134</td>
<td>2,676</td>
<td>479</td>
</tr>
<tr>
<td>理容</td>
<td>237</td>
<td>237</td>
<td>14,934</td>
<td>8,737</td>
<td>6,197</td>
<td>13,074</td>
<td>7,826</td>
</tr>
<tr>
<td>骨密度</td>
<td>98</td>
<td>97</td>
<td>2,319</td>
<td>1,259</td>
<td>1,060</td>
<td>2,259</td>
<td>1,245</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>146</td>
<td>144</td>
<td>13,786</td>
<td>2,402</td>
<td>11,384</td>
<td>12,808</td>
<td>2,138</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>315</td>
<td>314</td>
<td>30,095</td>
<td>11,079</td>
<td>19,016</td>
<td>22,828</td>
<td>8,608</td>
</tr>
<tr>
<td>教育</td>
<td>48</td>
<td>48</td>
<td>6,593</td>
<td>2,000</td>
<td>4,593</td>
<td>3,356</td>
<td>1,220</td>
</tr>
<tr>
<td>敬教</td>
<td>141</td>
<td>141</td>
<td>13,831</td>
<td>6,976</td>
<td>6,855</td>
<td>11,614</td>
<td>5,926</td>
</tr>
<tr>
<td>自主</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>2,695</td>
<td>7</td>
<td>2,688</td>
<td>2,613</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>家校</td>
<td>23</td>
<td>23</td>
<td>1,192</td>
<td>72</td>
<td>1,120</td>
<td>1,330</td>
<td>32</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>1,005</td>
<td>588</td>
<td>417</td>
<td>697</td>
<td>390</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>4,334</td>
<td>4,143</td>
<td>2,898</td>
<td>3,209</td>
<td>1,026</td>
</tr>
<tr>
<td>理法・簿記</td>
<td>3,549</td>
<td>3,528</td>
<td>127,620</td>
<td>2,898</td>
<td>124,722</td>
<td>72,482</td>
<td>1,865</td>
</tr>
<tr>
<td>書類</td>
<td>190</td>
<td>188</td>
<td>10,004</td>
<td>492</td>
<td>9,512</td>
<td>4,246</td>
<td>296</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>25</td>
<td>24</td>
<td>2,450</td>
<td>976</td>
<td>1,474</td>
<td>796</td>
<td>1,474</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2,926</td>
<td>2,909</td>
<td>105,598</td>
<td>1,945</td>
<td>103,653</td>
<td>60,071</td>
<td>1,150</td>
</tr>
<tr>
<td>文化</td>
<td>32</td>
<td>32</td>
<td>2,145</td>
<td>405</td>
<td>1,740</td>
<td>1,866</td>
<td>366</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>363</td>
<td>362</td>
<td>7,100</td>
<td>3</td>
<td>7,097</td>
<td>4,990</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>家校</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>323</td>
<td>53</td>
<td>270</td>
<td>239</td>
<td>52</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>328</td>
<td>320</td>
<td>38,635</td>
<td>19,787</td>
<td>18,848</td>
<td>25,779</td>
<td>14,169</td>
</tr>
<tr>
<td>家教</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
<td>785</td>
<td>106</td>
<td>678</td>
<td>618</td>
<td>85</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>45</td>
<td>42</td>
<td>2,351</td>
<td>945</td>
<td>1,406</td>
<td>1,391</td>
<td>570</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>84</td>
<td>80</td>
<td>9,254</td>
<td>4,727</td>
<td>4,527</td>
<td>5,275</td>
<td>2,640</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>169</td>
<td>21</td>
<td>148</td>
<td>76</td>
<td>12</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>55</td>
<td>55</td>
<td>8,445</td>
<td>2,058</td>
<td>6,385</td>
<td>5,465</td>
<td>1,151</td>
</tr>
<tr>
<td>家教</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>3,009</td>
<td>2,442</td>
<td>567</td>
<td>1,899</td>
<td>1,461</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>1,924</td>
<td>1,724</td>
<td>200</td>
<td>1,065</td>
<td>950</td>
</tr>
<tr>
<td>家教</td>
<td>16</td>
<td>16</td>
<td>2,732</td>
<td>330</td>
<td>2,402</td>
<td>1,793</td>
<td>247</td>
</tr>
<tr>
<td>家教</td>
<td>32</td>
<td>32</td>
<td>6,943</td>
<td>5,903</td>
<td>1,040</td>
<td>6,943</td>
<td>5,903</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注) 本表の「学科を設置する学校数」は、「区分」欄の学科をもっている学校の数である。例えば「和

--- 10 ---
科別、学年別、生徒数

| 数  | 2 学年 | 3 学年以上 | 生徒数計のうち（再掲） | 各学科を | | 128,245 | 34,893 | 93,352 | 38,365 | 5,761 | 32,604 |
|     | 19,824 | 18,765 | 1,059 | 1,196 | 1,193 | 3 |
|     | 364 | 363 | 1 | 12 | 1 |
|     | 6,940 | 6,561 | 379 | 140 | 137 | 3 |
|     | 2,784 | 2,294 | 490 | 731 | 625 | 106 |
|     | 1,929 | 661 | 1,268 | 1,792 | 554 | 1,238 |
|     | 858 | 823 | 35 | 739 | 704 | 35 |
|     | 1,564 | 1,144 | 420 | 1,661 | 1,261 | 400 |
|     | 555 | 517 | 48 | 194 | 194 | 149 |
|     | 402 | -208 | 194 | 284 | 134 | 149 |
|     | 5,237 | 2,612 | 3,625 | 32 | 4 | 28 |
|     | 2,996 | 1,900 | 32 | 4 | 28 |
|     | 1,880 | 911 | 949 | - | - |
|     | 60 | 14 | 46 | - | - |
|     | 976 | 264 | 714 | - | - |
|     | 73 | 66 | 7 | - | - |
|     | 10,716 | 177 | 10,539 | 1,248 | 4 | 1,244 |
|     | 5,357 | 10 | 5,347 | 948 | 4 | 944 |
|     | 5,257 | 151 | 5,106 | 300 | - | 300 |
|     | 108 | 16 | 88 | - | - |
|     | 78 | 18 | 60 | - | - |
|     | 6,490 | 2,110 | 3,500 | 1,627 | 361 | 1,266 |
|     | 1,941 | 1,288 | 1,453 | 1,296 | 292 | 1,004 |
|     | 1,955 | 1,003 | 952 | 262 | 47 | 215 |
|     | 47 | - | 47 | 35 | - | - |
|     | 298 | 33 | 265 | - | - |
|     | 274 | 176 | 98 | 34 | 22 | 12 |
|     | 1,125 | 410 | 715 | - | - |
|     | 40,642 | 1,009 | 39,633 | 14,496 | 24 | 14,472 |
|     | 3,449 | 196 | 3,253 | 2,315 | - | 2,315 |
|     | 302 | 267 | 505 | 158 | 78 | 80 |
|     | 3,556 | 1,826 | 1,730 | 423 | 261 | 162 |
|     | 59 | 5 | 54 | 34 | 4 | 30 |
|     | 2,940 | 530 | 2,410 | 37 | 12 | 25 |
|     | 1,162 | 948 | 214 | 38 | 33 | 5 |
|     | 810 | 727 | 83 | 49 | 47 | 2 |
|     | 939 | 83 | 856 | - | - | - |
|     | 907 | 508 | 399 | 775 | 238 | 537 |

洋裁"、「細物・手芸」及び「家庭」をもっている学校は、それぞれの学科の間に1校として計上される。

－11－
<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>学科を設置する学校数</th>
<th>学科数</th>
<th>合計</th>
<th>性別</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>231</td>
<td>363</td>
<td>57,645</td>
<td>54,243</td>
<td>3,402</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>9</td>
<td>11</td>
<td>493</td>
<td>460</td>
<td>33</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医業</td>
<td>790</td>
<td>906</td>
<td>93,226</td>
<td>17,189</td>
<td>76,046</td>
<td>22,895</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>423</td>
<td>510</td>
<td>36,396</td>
<td>13,501</td>
<td>22,895</td>
<td>21,985</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>89</td>
<td>114</td>
<td>22,503</td>
<td>518</td>
<td>19,016</td>
<td>21,985</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>239</td>
<td>315</td>
<td>30,095</td>
<td>11,079</td>
<td>19,016</td>
<td>21,985</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>1,838</td>
<td>3,549</td>
<td>127,620</td>
<td>2,898</td>
<td>124,722</td>
<td>18,848</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>198</td>
<td>328</td>
<td>38,635</td>
<td>19,787</td>
<td>18,848</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>3,817</td>
<td>6,096</td>
<td>406,613</td>
<td>119,666</td>
<td>286,947</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野</th>
<th>計 (注1) (%) (注2) %</th>
<th>課 (注1) (%) (注2) %</th>
<th>程 (注1) (%) (注2) %</th>
<th>(注1) (%) (注2) %</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>14.2</td>
<td>6.1</td>
<td>17.1</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>57,645</td>
<td>4,149</td>
<td>53,138</td>
<td>358</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>0.1</td>
<td>0.2</td>
<td>0.1</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>493</td>
<td>105</td>
<td>388</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>22.9</td>
<td>28.2</td>
<td>23.8</td>
<td>0.2</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>93,226</td>
<td>19,176</td>
<td>73,996</td>
<td>54</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>9.0</td>
<td>21.7</td>
<td>6.4</td>
<td>6.4</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>36,396</td>
<td>14,809</td>
<td>19,803</td>
<td>4.9</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉・教育</td>
<td>5.5</td>
<td>—</td>
<td>7.2</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>22,503</td>
<td>—</td>
<td>22,503</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>実商・務業</td>
<td>7.4</td>
<td>8.4</td>
<td>7.2</td>
<td>6.9</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>30,095</td>
<td>5,692</td>
<td>22,481</td>
<td>6.4</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>31.4</td>
<td>33.3</td>
<td>28.6</td>
<td>58.6</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>127,620</td>
<td>22,674</td>
<td>88,889</td>
<td>16,257</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・文化</td>
<td>9.5</td>
<td>2.1</td>
<td>9.6</td>
<td>26.6</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>38,635</td>
<td>1,458</td>
<td>29,802</td>
<td>7,375</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100</td>
<td>100</td>
<td>100</td>
<td>100</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注1）は、横の欄の百分比
（注2）は、縦の欄の百分比（課程別、設置者別、昼夜別）
（分野、性別、学年、国公立、昼夜別）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>学年別</th>
<th>設置者別</th>
<th>昼夜別</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>1年</td>
<td>2年</td>
<td>3年</td>
</tr>
<tr>
<td>36,625</td>
<td>19,824</td>
<td>1,196</td>
<td>57,645</td>
</tr>
<tr>
<td>376</td>
<td>67</td>
<td>50</td>
<td>493</td>
</tr>
<tr>
<td>40,247</td>
<td>34,789</td>
<td>18,190</td>
<td>63,371</td>
</tr>
<tr>
<td>31,127</td>
<td>5,237</td>
<td>32</td>
<td>35,951</td>
</tr>
<tr>
<td>10,539</td>
<td>10,716</td>
<td>1,248</td>
<td>21,895</td>
</tr>
<tr>
<td>22,828</td>
<td>5,640</td>
<td>1,627</td>
<td>30,006</td>
</tr>
<tr>
<td>72,482</td>
<td>40,642</td>
<td>14,496</td>
<td>126,536</td>
</tr>
<tr>
<td>25,779</td>
<td>11,330</td>
<td>1,526</td>
<td>38,462</td>
</tr>
<tr>
<td>240,003</td>
<td>128,245</td>
<td>38,365</td>
<td>374,359</td>
</tr>
</tbody>
</table>

昼夜別生徒数とその比率

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>設置者別</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国・公立</td>
<td>私立</td>
<td>昼</td>
<td>夜</td>
</tr>
<tr>
<td>(注1)% (注2)%</td>
<td>(注1)% (注2)%</td>
<td>(注1)% (注2)%</td>
<td>(注1)% (注2)%</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>15.4</td>
<td>100</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>0.1</td>
<td>100</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>92.6</td>
<td>32.0</td>
<td>16.9</td>
<td>68.0</td>
</tr>
<tr>
<td>29,855</td>
<td>63,371</td>
<td>78,594</td>
<td>14,632</td>
</tr>
<tr>
<td>1.4</td>
<td>1.2</td>
<td>9.6</td>
<td>98.8</td>
</tr>
<tr>
<td>445</td>
<td>35,951</td>
<td>28,621</td>
<td>7,775</td>
</tr>
<tr>
<td>1.9</td>
<td>2.7</td>
<td>5.9</td>
<td>97.3</td>
</tr>
<tr>
<td>608</td>
<td>21,895</td>
<td>16,929</td>
<td>5,574</td>
</tr>
<tr>
<td>0.3</td>
<td>0.3</td>
<td>8.0</td>
<td>99.7</td>
</tr>
<tr>
<td>89</td>
<td>30,006</td>
<td>27,543</td>
<td>2,552</td>
</tr>
<tr>
<td>3.3</td>
<td>0.8</td>
<td>33.8</td>
<td>99.2</td>
</tr>
<tr>
<td>1,084</td>
<td>126,536</td>
<td>97,145</td>
<td>30,475</td>
</tr>
<tr>
<td>0.5</td>
<td>0.4</td>
<td>10.3</td>
<td>99.6</td>
</tr>
<tr>
<td>173</td>
<td>38,462</td>
<td>33,067</td>
<td>5,568</td>
</tr>
<tr>
<td>100</td>
<td>7.9</td>
<td>100</td>
<td>92.1</td>
</tr>
<tr>
<td>32,254</td>
<td>374,359</td>
<td>330,693</td>
<td>75,920</td>
</tr>
<tr>
<td>分野</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
<td>----</td>
<td>----</td>
<td>----</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>(注1)% (注2)% 14.2 100</td>
<td>57,645</td>
<td>54,243</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 15.3 63.5</td>
<td>36,625</td>
<td>34,285</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 15.4 34.5</td>
<td>19,824</td>
<td>18,765</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>0.1 100</td>
<td>493</td>
<td>460</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>0.2 76.3</td>
<td>376</td>
<td>348</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>0.1 13.6</td>
<td>67</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 3.1 2.0</td>
<td>1,196</td>
<td>1,193</td>
</tr>
<tr>
<td>療養</td>
<td>22.9 100</td>
<td>93,226</td>
<td>71,180</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16.8 43.2</td>
<td>40,247</td>
<td>32,732</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>27.1 37.3</td>
<td>34,789</td>
<td>28,581</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>9.0 100</td>
<td>36,396</td>
<td>13,501</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>12.9 85.5</td>
<td>31,127</td>
<td>19,242</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4.1 14.4</td>
<td>5,237</td>
<td>1,612</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 0.1 0.1</td>
<td>32</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・福祉</td>
<td>5.5 100</td>
<td>22,503</td>
<td>518</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4.4 46.8</td>
<td>10,539</td>
<td>337</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>8.4 47.6</td>
<td>10,716</td>
<td>177</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 3.3 5.6</td>
<td>1,248</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>事業・実務</td>
<td>7.4 100</td>
<td>30,095</td>
<td>11,079</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>9.5 75.9</td>
<td>22,828</td>
<td>8,608</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4.4 18.7</td>
<td>5,640</td>
<td>2,110</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 4.2 5.4</td>
<td>361</td>
<td>1,266</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>31.4 100</td>
<td>127,620</td>
<td>2,898</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>30.2 56.8</td>
<td>72,482</td>
<td>1,865</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>31.7 31.9</td>
<td>40,642</td>
<td>1,009</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 37.8 11.3</td>
<td>14,496</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>文化教養</td>
<td>9.5 100</td>
<td>38,635</td>
<td>19,787</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>10.7 66.7</td>
<td>25,779</td>
<td>14,169</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>8.8 29.3</td>
<td>11,330</td>
<td>4,945</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 4.0 4.0</td>
<td>1,526</td>
<td>673</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(注1)% (注2)% 9.4</td>
<td>38,365</td>
<td>5,761</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注1）は縦の欄の百分比
（注2）は横の欄の百分比
の頃となっている。男女別には工業と農業、文化・教養の分野が男子が多く、他の分野は女子が多い。特に教育・社会福祉と家政はほとんどが女子である。

各分野に属する学科の生徒数をみると、トップは和・洋裁の10万5,598人、ついて看護4万8,820人、かなり減少して准看護1万7,264人、土木建築1万6,776人となっており、1万人前後の生徒数を有する学科がかなり多く、専修学校の多彩さを示すものである。

(4) 学年別生徒数

学年別に生徒数をみると、1学年在校者が多く24万3人（59.1%）で、全生徒数の6割近くを占めている。修業年限1年以上と、比較的短期のコースが多く、専修学校の実情を示すものである。2年在校者数12万8,245人（31.6%）、3年在校者数3万8,365人（9.4%）で1割以内である。これを分野別にみると、修業年限の長短にかかわり差異がみられる。1年生の比率が高いのは、衛生分野で85.5%を占めている。これはこの分野の主体を占める理美容、調理の各学科の昼間部が修業年限1年と定められているためである。これに対し医療分野は、1年在校者数が43.2%、2年在校者数が過半数を占めている。医療系の各学科は、いずれも修業年限2～3年と定められている。教育・社会福祉は、いずれも主体を占める昼間部の修業年限が2年と定められており、1、2年次がほぼ同数程度である。農業、商業実務は、1年次生が3割を占め、文化・教養、工業でも1年次生は6割から7割近くとなっている。

(5) 課程別生徒数

さらに細みたように、専修学校の課程別生徒数では、専門課程が主体（76.4%）であり、ついて高等課程（16.7%)、一貫課程（6.2%）である。これらをさらに分野別にみると、かなりの相違がみられる。専門課程の生徒数の比率が高いのは、教育・社会福祉（100%）、医療、農業（8割）、医療、商業実務（92.2%）であり、医療、農業も8割が専門課程生徒数である。これらに対し、高等課程生徒数の比率が高いのは教育・社会福祉（80%）、一貫課程生徒数の比率が高いのは文化・教養（19.1%）である。家政は、専門課程生徒数が約7割を占めるが、高等課程も2万2,674人（17.8%）、一貫課程も1万6,257人（19.1%）と比較的多く在学しており、特に、一貫課程生徒数のうち過半数（58.0%）は、家政分野の在校者である。

(6) 設置者別生徒数

専修学校生徒数を、設置者別にみると多くは私立（92.1%）であり、国・公立はわずか（7.9%）である。これらを分野別にみると、大きな違いがみられる。8分野のなかでも、医療系の学校生徒数が、国・公立2万9,855人であり、これは医療系の全生徒数のうち32.0%を占め、国・公立の全生徒数の中では92.6%とほとんどを占めている。他の分野では、国・公立に主籍する生徒数はごくわずかである。

(7) 昼夜別生徒数

専修学校に在学する生徒数を昼夜別にみると、昼間部生が主体であり、53万6,593人（81.3%)と8割以上を占めている。分野別にみても、若干の差異がみられる程度であるが、商業実務（91.5%）や文化・教養（85.6%）では昼間部生の比率がいっそう高く、教育・社会福祉（24.8%）、家政（23.9%）では、比較的夜間部生の比率が高くなっている。
第14表 専門学校 学科数及び

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>学科数</th>
<th>計</th>
<th>計のうち</th>
<th>公立</th>
<th>私立</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業関係</td>
<td>計</td>
<td>4,267</td>
<td>3,939</td>
<td>310,800</td>
<td>97,684</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>鉄道</td>
<td>309</td>
<td>309</td>
<td>53,138</td>
<td>49,770</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>建築</td>
<td>24</td>
<td>24</td>
<td>3,589</td>
<td>3,528</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電気</td>
<td>77</td>
<td>77</td>
<td>16,588</td>
<td>15,838</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>産業</td>
<td>48</td>
<td>48</td>
<td>9,365</td>
<td>9,239</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>木工</td>
<td>30</td>
<td>30</td>
<td>3,728</td>
<td>3,655</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>車両</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
<td>4,987</td>
<td>4,980</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>子報</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>937</td>
<td>935</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計算</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
<td>5,860</td>
<td>4,642</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電気</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
<td>4,226</td>
<td>3,638</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電気</td>
<td>44</td>
<td>44</td>
<td>3,861</td>
<td>3,315</td>
</tr>
<tr>
<td>農業関係</td>
<td>計</td>
<td>733</td>
<td>426</td>
<td>73,996</td>
<td>15,420</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>農業</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>120</td>
<td>120</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>林業</td>
<td>45</td>
<td>36</td>
<td>3,718</td>
<td>3,103</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>理学</td>
<td>48</td>
<td>48</td>
<td>6,679</td>
<td>5,583</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電気</td>
<td>19</td>
<td>18</td>
<td>5,929</td>
<td>2,119</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計算</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
<td>2,749</td>
<td>2,462</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電気</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
<td>21,321</td>
<td>1,131</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電気</td>
<td>37</td>
<td>37</td>
<td>1,889</td>
<td>359</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>医療関係</td>
<td>計</td>
<td>200</td>
<td>195</td>
<td>19,803</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>医療</td>
<td>23</td>
<td>19</td>
<td>4,934</td>
<td>831</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>救助</td>
<td>79</td>
<td>79</td>
<td>6,811</td>
<td>4,051</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>看護</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>733</td>
<td>517</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計算</td>
<td>60</td>
<td>59</td>
<td>6,943</td>
<td>1,286</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計算</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>332</td>
<td>245</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>食物</td>
<td>114</td>
<td>108</td>
<td>22,503</td>
<td>518</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>食物</td>
<td>48</td>
<td>45</td>
<td>11,292</td>
<td>30</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>60</td>
<td>57</td>
<td>10,652</td>
<td>360</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>559</td>
<td>128</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>221</td>
<td>220</td>
<td>22,481</td>
<td>9,067</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>1,921</td>
<td>844</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>106</td>
<td>106</td>
<td>11,647</td>
<td>6,223</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>24</td>
<td>24</td>
<td>2,168</td>
<td>1,268</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
<td>1,637</td>
<td>72</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>892</td>
<td>233</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>40</td>
<td>39</td>
<td>4,216</td>
<td>1,405</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>2,420</td>
<td>2,415</td>
<td>88,689</td>
<td>2,172</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>79,327</td>
<td>1,186</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>641</td>
<td>220</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>231</td>
<td>231</td>
<td>4,634</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>135</td>
<td>52</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>261</td>
<td>257</td>
<td>29,802</td>
<td>13,452</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>433</td>
<td>66</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>37</td>
<td>35</td>
<td>2,007</td>
<td>893</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>81</td>
<td>79</td>
<td>9,161</td>
<td>4,673</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>125</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>51</td>
<td>51</td>
<td>8,330</td>
<td>2,021</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>3,009</td>
<td>2,442</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>1,562</td>
<td>1,165</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>16</td>
<td>16</td>
<td>230</td>
<td>190</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1,713</td>
<td>1,151</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家事</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>年数</td>
<td>2学年</td>
<td>3学年以上</td>
<td>私立</td>
<td>疑問の科学</td>
<td>学科を設置する学校</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
<td>-------</td>
<td>-----------</td>
<td>------</td>
<td>-------------</td>
<td>------------------</td>
</tr>
<tr>
<td>119,918</td>
<td>101,607</td>
<td>5,097</td>
<td>26,498</td>
<td>8,319</td>
<td>22,688</td>
</tr>
<tr>
<td>2,312</td>
<td>18,525</td>
<td>17,469</td>
<td>1,056</td>
<td>104</td>
<td>104</td>
</tr>
<tr>
<td>57</td>
<td>364</td>
<td>363</td>
<td>1</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>374</td>
<td>6,684</td>
<td>6,488</td>
<td>376</td>
<td>101</td>
<td>101</td>
</tr>
<tr>
<td>87</td>
<td>3,906</td>
<td>3,467</td>
<td>39</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>62</td>
<td>1,502</td>
<td>1,491</td>
<td>11</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>1,760</td>
<td>1,758</td>
<td>2</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>-</td>
<td>388</td>
<td>386</td>
<td>2</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>873</td>
<td>1,649</td>
<td>1,204</td>
<td>345</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>364</td>
<td>1,271</td>
<td>1,047</td>
<td>224</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>490</td>
<td>1,221</td>
<td>1,165</td>
<td>56</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>63</td>
<td>63</td>
<td>-</td>
<td>49</td>
<td>44</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>51</td>
<td>51</td>
<td>-</td>
<td>49</td>
<td>44</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>22,309</td>
<td>26,172</td>
<td>5,576</td>
<td>20,596</td>
<td>17,602</td>
<td>3,021</td>
</tr>
<tr>
<td>17,971</td>
<td>17,133</td>
<td>225</td>
<td>16,908</td>
<td>12,908</td>
<td>142</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>53</td>
<td>53</td>
<td>-</td>
<td>37</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>2,236</td>
<td>1,410</td>
<td>1,377</td>
<td>38</td>
<td>36</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>500</td>
<td>2,784</td>
<td>2,794</td>
<td>490</td>
<td>731</td>
<td>625</td>
</tr>
<tr>
<td>1,304</td>
<td>1,292</td>
<td>1,268</td>
<td>1,792</td>
<td>554</td>
<td>1,238</td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>858</td>
<td>823</td>
<td>35</td>
<td>739</td>
<td>704</td>
</tr>
<tr>
<td>280</td>
<td>1,058</td>
<td>815</td>
<td>243</td>
<td>1,073</td>
<td>825</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>556</td>
<td>517</td>
<td>48</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>987</td>
<td>402</td>
<td>208</td>
<td>194</td>
<td>284</td>
<td>135</td>
</tr>
<tr>
<td>10,579</td>
<td>2,960</td>
<td>694</td>
<td>2,266</td>
<td>32</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>2,166</td>
<td>2,266</td>
<td>357</td>
<td>1,909</td>
<td>32</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>2,592</td>
<td>373</td>
<td>205</td>
<td>168</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>285</td>
<td>7</td>
<td>1</td>
<td>6</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>5,476</td>
<td>247</td>
<td>66</td>
<td>181</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>80</td>
<td>67</td>
<td>60</td>
<td>7</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>10,202</td>
<td>10,176</td>
<td>177</td>
<td>10,539</td>
<td>1,248</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>4,971</td>
<td>5,357</td>
<td>10</td>
<td>5,347</td>
<td>948</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>4,886</td>
<td>5,257</td>
<td>151</td>
<td>5,106</td>
<td>300</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>345</td>
<td>102</td>
<td>16</td>
<td>86</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>11,310</td>
<td>3,725</td>
<td>1,621</td>
<td>2,104</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>784</td>
<td>390</td>
<td>97</td>
<td>293</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>4,679</td>
<td>1,667</td>
<td>922</td>
<td>745</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>2,168</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>1,300</td>
<td>298</td>
<td>33</td>
<td>265</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>283</td>
<td>245</td>
<td>159</td>
<td>86</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>2,096</td>
<td>1,125</td>
<td>410</td>
<td>715</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>52,144</td>
<td>28,719</td>
<td>764</td>
<td>27,955</td>
<td>6,439</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>1,756</td>
<td>1,396</td>
<td>2</td>
<td>1,394</td>
<td>318</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>277</td>
<td>196</td>
<td>-</td>
<td>196</td>
<td>5</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>46,457</td>
<td>25,874</td>
<td>761</td>
<td>25,133</td>
<td>5,882</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>388</td>
<td>33</td>
<td>-</td>
<td>33</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>3195</td>
<td>1,205</td>
<td>1</td>
<td>1,204</td>
<td>234</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>71</td>
<td>15</td>
<td>-</td>
<td>15</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>9,944</td>
<td>10,727</td>
<td>4,733</td>
<td>5,994</td>
<td>1,024</td>
<td>612</td>
</tr>
<tr>
<td>254</td>
<td>120</td>
<td>19</td>
<td>101</td>
<td>12</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>771</td>
<td>762</td>
<td>287</td>
<td>475</td>
<td>130</td>
<td>62</td>
</tr>
<tr>
<td>2,613</td>
<td>3,518</td>
<td>1,803</td>
<td>1,715</td>
<td>412</td>
<td>252</td>
</tr>
<tr>
<td>44</td>
<td>35</td>
<td>5</td>
<td>30</td>
<td>34</td>
<td>42</td>
</tr>
<tr>
<td>3,912</td>
<td>2,899</td>
<td>515</td>
<td>2,384</td>
<td>20</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>348</td>
<td>1,162</td>
<td>948</td>
<td>214</td>
<td>38</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>112</td>
<td>810</td>
<td>727</td>
<td>83</td>
<td>49</td>
<td>47</td>
</tr>
<tr>
<td>1,546</td>
<td>939</td>
<td>83</td>
<td>866</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>304</td>
<td>482</td>
<td>346</td>
<td>136</td>
<td>329</td>
<td>207</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第15表 専門学校生徒数の現状

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>学科を設置する学校数</th>
<th>学科数</th>
<th>合計</th>
<th>性別</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>186</td>
<td>309</td>
<td>53,138</td>
<td>49,770</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>7</td>
<td>9</td>
<td>388</td>
<td>355</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>628</td>
<td>733</td>
<td>73,996</td>
<td>15,420</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>174</td>
<td>200</td>
<td>19,803</td>
<td>6,930</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>89</td>
<td>114</td>
<td>22,503</td>
<td>518</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>164</td>
<td>221</td>
<td>22,481</td>
<td>9,067</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>1,079</td>
<td>2,420</td>
<td>88,689</td>
<td>2,172</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>146</td>
<td>261</td>
<td>29,802</td>
<td>13,452</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>2,473</td>
<td>4,267</td>
<td>310,800</td>
<td>96,684</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第16表 専門学校、学年別、設置者別

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野别</th>
<th>1学年</th>
<th>2学年</th>
<th>1学年</th>
<th>2学年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>分野</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>(注1)% (注2)%</td>
<td>53,138</td>
<td>3,368</td>
<td>(注1)% (注2)%</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>0.1 100</td>
<td>49,770</td>
<td>3,368</td>
<td>0.2 71.1</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>23.8 100</td>
<td>73,996</td>
<td>58,576</td>
<td>16.5 40.8</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>6.4 100</td>
<td>19,803</td>
<td>12,873</td>
<td>9.2 84.9</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>7.2 100</td>
<td>22,503</td>
<td>518</td>
<td>21,985</td>
</tr>
<tr>
<td>優秀業</td>
<td>7.2 100</td>
<td>22,481</td>
<td>9,067</td>
<td>13,414</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>28.6 100</td>
<td>88,689</td>
<td>2,172</td>
<td>86,517</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・文化</td>
<td>9.6 100</td>
<td>29,802</td>
<td>13,452</td>
<td>16,350</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>100 100</td>
<td>310,800</td>
<td>97,684</td>
<td>213,116</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注1）は統計表の百分比
（注2）は構造的百分比（学年別、設置者別、昼夜別）

— 18 —
（分野別、性別、学年別、国・公・私別、昼夜別）

<table>
<thead>
<tr>
<th>徒</th>
<th>数</th>
<th>学年別</th>
<th>設置者別</th>
<th>昼夜別</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1 年</td>
<td>2 年</td>
<td>3 年</td>
<td>私立</td>
<td>国・公立</td>
</tr>
<tr>
<td>34,509</td>
<td>18,525</td>
<td>104</td>
<td>53,138</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>276</td>
<td>63</td>
<td>49</td>
<td>388</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>30,222</td>
<td>26,172</td>
<td>17,602</td>
<td>46,680</td>
<td>27,316</td>
</tr>
<tr>
<td>16,811</td>
<td>2,960</td>
<td>32</td>
<td>19,434</td>
<td>369</td>
</tr>
<tr>
<td>10,539</td>
<td>10,716</td>
<td>1,248</td>
<td>21,895</td>
<td>608</td>
</tr>
<tr>
<td>18,756</td>
<td>3,725</td>
<td>—</td>
<td>22,392</td>
<td>89</td>
</tr>
<tr>
<td>53,531</td>
<td>28,719</td>
<td>6,439</td>
<td>88,475</td>
<td>214</td>
</tr>
<tr>
<td>18,051</td>
<td>10,727</td>
<td>1,024</td>
<td>29,785</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>182,695</td>
<td>101,607</td>
<td>26,498</td>
<td>282,187</td>
<td>28,613</td>
</tr>
</tbody>
</table>

昼夜別、生徒数とその比率

<table>
<thead>
<tr>
<th>3 学年</th>
<th>設置者</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>計</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>国・公立</td>
</tr>
<tr>
<td>(注1)% (注2)%</td>
<td>0.4</td>
<td>0.2</td>
<td>0.6</td>
</tr>
<tr>
<td>104</td>
<td>104</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>0.2</td>
<td>12.6</td>
<td>49</td>
<td>44</td>
</tr>
<tr>
<td>95.5</td>
<td>36.9</td>
<td>16.5</td>
<td>63.1</td>
</tr>
<tr>
<td>17,602</td>
<td>3,021</td>
<td>14,581</td>
<td>27,316</td>
</tr>
<tr>
<td>0.1</td>
<td>0.2</td>
<td>32</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>6,439</td>
<td>0.7</td>
<td>0.2</td>
<td>31.5</td>
</tr>
<tr>
<td>26.8</td>
<td>76.5</td>
<td>36.0</td>
<td>23.5</td>
</tr>
<tr>
<td>1,024</td>
<td>612</td>
<td>412</td>
<td>0.1</td>
</tr>
<tr>
<td>0.1</td>
<td>0.1</td>
<td>0.1</td>
<td>0.1</td>
</tr>
<tr>
<td>100</td>
<td>9.2</td>
<td>100</td>
<td>90.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>
8. 専門学校生徒数の現状（分野・学科別、学年別、男女別，設置者別，昼夜別）

専門学校の専門課程（専門学校）の生徒数については、第14表、第15表、第16表で、分野・学科別，性別，学年別，設置者別，昼夜別生徒数を示した。これらの各表にもとづき，専門学校生徒数の現状をみよう。

(1) 学科を設置する学校数

専門課程をおく学校数は，1,808校であり，学科を設置する学校数は2,473校となっている。分野別に多いのは家政1,079校，ついて医療628校であり，他は100校台である。

(2) 学　科　数

専門学校の学科数は4,267学科であり，1校当たり平均2.4学科である。分野別に多いのは家政2,420学科で，全学科の約6割近くを占めており，家政の中でも和・洋裁が多い。

(3) 分野別・学科別生徒数

専門学校の生徒数31万800人のうち，最も多いのは家政で8万8,689人（28.6％），ついて医療7万3,996人（23.8％）であり，工業5万3,138人（17.1％），文化・教養2万9,802人（9.6％）の順である。男女別には，工業，農業の分野が男性が多く，他の分野は女子が多い。教育・社会福祉と家政はほとんどが女子である。各分野に属する学科別の生徒数では，和・洋裁の7万9,327人をトップに看護4万8,387人，他の学科は1万人台である。

(4) 学年別生徒数

学年別生徒数では1学年生学者が多く18万2,695人（58.8％）である。以下，2年次在学者（32.7％），3年次在学者（8.5％）と少なくになっている。これを分野別にみるとかなり差異があり，1年次年の比率が高いのは衛生分野で84.9％を占める。他方，高学年次生の比率が高いのは医療で，3年次生は23.8％を占めている。

(5) 設置者別生徒数

専門学校生徒数を設置者別にみると，多くは私立（90.8％）であり，国・公立は9.2％と1割未満である。分野別には医療系学校が他と異なり，国・公立の生徒数2万7,316人である。これは医療系の生徒数の36.9％を占め，国・公立の生徒数の中では95.5％とほとんどを占めている。他の分野では，国・公立の生徒数はごくわずかにとどまっている。

(6) 昼夜別生徒数

専門学校の生徒数は昼夜別にみると，昼間生が主体で25万2,974人（81.4％）と8割以上を占めている。分野別には若干の差異がみられる程度で，商業実務（92.4％），衛生（89.6％）など昼間生の比率が，一段と高くなっている。家政と教育・社会福祉では，比較的昼間生の比率が高い。

9. 各種学校本務教職員数

第17表は，各種学校の本務教職員数について，男女別，設置者別にみたものである。本務教員数
第17表 設置者別教員数及び職員数（本務者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>計</th>
<th>国 立</th>
<th>公 立</th>
<th>私 立</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>教 員 数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>27,936</td>
<td>26</td>
<td>1,009</td>
<td>26,901</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>14,957</td>
<td>-</td>
<td>210</td>
<td>14,747</td>
</tr>
<tr>
<td>職 員 数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>12,979</td>
<td>26</td>
<td>799</td>
<td>12,154</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>11,681</td>
<td>3</td>
<td>663</td>
<td>11,015</td>
</tr>
</tbody>
</table>

は、約2万8,000人、男女別には男子1万5,000人、女子1万3,000人であり、男子教員が2,000人多くなっている。国・公立では女子教員が多くを占めるが、私立各種学校では男子教員が多い。職員数は1万1,681人、男女別には、男子5,322人、女子6,359人で、女子職員が1,000人程度多くなっている。

10. 各種学校生徒数の現状（課程別、男女別、修業年限別、昼夜別）

入学資格別

第18表は、各種学校について、課程の種類と課程数、課程別にみた修業年限別、男女別生徒数、昼夜別、入学資格別、男女別生徒数を示したものである。つづいて第19表には、上記の表にもとづいて、課程別の分野をまとめて区分し、それぞれを修業年限別、男女別、昼夜別、入学資格別生徒数を算出し、それらについての比率を示したものである。これらの表により、各種学校の現状をみることができる。

(1) 課程の種類と課程数

専修学校発足後すでに2年を経過し、専修学校の現状でもみたように、この間に従来の各種学校のうち2,000校以上は専修学校へと移行している。専修学校の種類も8分野ごとに区分され、学校種類をあらわす学科の区分も、多くにわたっている。現在の各種学校は、専修学校に移行したものを除いた、従来の各種学校が継続したものがほとんどを占めているが、51年以後、新しく各種学校として設置認可されたものが若干含まれる。5,000校をこえる各種学校の学校種類もなお広範、多岐にわたっている。学校の種類によっては医療系、教育福祉系、衛生系の学校などでは、文部大臣指定養成施設、厚生大臣指定養成施設となっており、これらの規制をうける学校は、その設置基準が専修学校設置基準よりも高く、専修学校発足後2年を経過した今日、すべてが専修学校に移行してもよいと思われるが、表にもみられるように、相当数の学校が各種学校にとどまっている実情である。その結果、各種学校の学校種類は、専修学校よりも多くなっている。

各種学校の課程数は、全体で9,276であり、1学校平均2課程足らずである。昼夜別には、昼間が5,104、夜間4,172であり、昼間課程が若干多い。課程数の多い順にみると、和・洋裁3,299をはじめ、編集・手芸1,293、簿記・簿算1,113であり、ついて自動車操縦495、准看護婦363となっている。和・洋裁、編集・手芸など服装の課程で、全課程数の半分を占めている。

(2) 課程別・男女別生徒数

各種学校の生徒数78万1,031人であり、課程別に多い順でみると、子備校22万2,928人(28.5%)、
<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>計</th>
<th>計のうち</th>
<th>生</th>
<th>生業年限1年未満</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>計</td>
<td>昼間</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
</tr>
<tr>
<td>和洋裁</td>
<td>9,276</td>
<td>5,104</td>
<td>781,031</td>
<td>354,595</td>
</tr>
<tr>
<td>矮物手芸</td>
<td>3,299</td>
<td>1,791</td>
<td>70,255</td>
<td>203</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>1,293</td>
<td>662</td>
<td>25,489</td>
<td>28</td>
</tr>
<tr>
<td>栽養</td>
<td>91</td>
<td>64</td>
<td>2,603</td>
<td>32</td>
</tr>
<tr>
<td>料理</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>579</td>
<td>90</td>
</tr>
<tr>
<td>商業経営</td>
<td>364</td>
<td>182</td>
<td>28,003</td>
<td>2,321</td>
</tr>
<tr>
<td>計算</td>
<td>51</td>
<td>28</td>
<td>4,251</td>
<td>2,385</td>
</tr>
<tr>
<td>土木建築</td>
<td>50</td>
<td>26</td>
<td>2,568</td>
<td>830</td>
</tr>
<tr>
<td>無線通信</td>
<td>1,113</td>
<td>360</td>
<td>96,159</td>
<td>40,237</td>
</tr>
<tr>
<td>タイピスト</td>
<td>199</td>
<td>97</td>
<td>9,583</td>
<td>215</td>
</tr>
<tr>
<td>運記</td>
<td>4</td>
<td>1</td>
<td>168</td>
<td>46</td>
</tr>
<tr>
<td>電子計算機</td>
<td>7</td>
<td>3</td>
<td>2,074</td>
<td>1,815</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>42</td>
<td>26</td>
<td>1,566</td>
<td>1,489</td>
</tr>
<tr>
<td>教員養成</td>
<td>16</td>
<td>5</td>
<td>422</td>
<td>415</td>
</tr>
<tr>
<td>保母養成</td>
<td>9</td>
<td>6</td>
<td>1,439</td>
<td>1,399</td>
</tr>
<tr>
<td>看護婦</td>
<td>197</td>
<td>142</td>
<td>16,624</td>
<td>368</td>
</tr>
<tr>
<td>澀護婦</td>
<td>363</td>
<td>352</td>
<td>31,562</td>
<td>1,726</td>
</tr>
<tr>
<td>保健婦</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
<td>816</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>助手</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
<td>453</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>放射線</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>99</td>
<td>78</td>
</tr>
<tr>
<td>臨床検査</td>
<td>13</td>
<td>9</td>
<td>2,009</td>
<td>794</td>
</tr>
<tr>
<td>口科衛生</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>1,513</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>口科医技</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>616</td>
<td>476</td>
</tr>
<tr>
<td>医学医</td>
<td>8</td>
<td>6</td>
<td>540</td>
<td>369</td>
</tr>
<tr>
<td>はりきゅうあんま</td>
<td>21</td>
<td>13</td>
<td>2,920</td>
<td>2,137</td>
</tr>
<tr>
<td>柔道整復</td>
<td>6</td>
<td>2</td>
<td>857</td>
<td>794</td>
</tr>
<tr>
<td>理容</td>
<td>54</td>
<td>51</td>
<td>1,065</td>
<td>519</td>
</tr>
<tr>
<td>美容</td>
<td>88</td>
<td>71</td>
<td>8,612</td>
<td>1,489</td>
</tr>
<tr>
<td>自動車整備</td>
<td>495</td>
<td>213</td>
<td>122,485</td>
<td>68,582</td>
</tr>
<tr>
<td>演劇舞踊</td>
<td>67</td>
<td>34</td>
<td>4,949</td>
<td>377</td>
</tr>
<tr>
<td>美術</td>
<td>56</td>
<td>37</td>
<td>5,030</td>
<td>2,693</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>68</td>
<td>46</td>
<td>5,299</td>
<td>931</td>
</tr>
<tr>
<td>書道</td>
<td>46</td>
<td>25</td>
<td>2,392</td>
<td>904</td>
</tr>
<tr>
<td>茶道</td>
<td>146</td>
<td>73</td>
<td>4,967</td>
<td>114</td>
</tr>
<tr>
<td>平等教養</td>
<td>152</td>
<td>99</td>
<td>11,544</td>
<td>537</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語</td>
<td>154</td>
<td>49</td>
<td>33,719</td>
<td>15,428</td>
</tr>
<tr>
<td>予備校</td>
<td>338</td>
<td>222</td>
<td>222,928</td>
<td>179,436</td>
</tr>
<tr>
<td>職業数</td>
<td>30</td>
<td>25</td>
<td>1,307</td>
<td>1,060</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語学校</td>
<td>180</td>
<td>177</td>
<td>38,558</td>
<td>18,656</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>77</td>
<td>45</td>
<td>6,844</td>
<td>3,927</td>
</tr>
<tr>
<td>の課程</td>
<td>修業年限 1年以上の課程</td>
<td>計のうち昼間の課程の生徒数（再掲）</td>
<td>計のうち「高卒」以上を入学資格とする課程の生徒数（再掲）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------------</td>
<td>---------------------------------</td>
<td>-------------------------------------------------</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>133,379</td>
<td>528,633</td>
<td>235,576</td>
<td>293,057</td>
<td>458,052</td>
</tr>
<tr>
<td>10,783</td>
<td>59,423</td>
<td>154</td>
<td>59,269</td>
<td>42,202</td>
</tr>
<tr>
<td>9,283</td>
<td>16,201</td>
<td>23</td>
<td>16,178</td>
<td>12,269</td>
</tr>
<tr>
<td>361</td>
<td>2,327</td>
<td>27</td>
<td>2,210</td>
<td>2,119</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>579</td>
<td>90</td>
<td>489</td>
<td>579</td>
</tr>
<tr>
<td>9,964</td>
<td>17,465</td>
<td>1,729</td>
<td>15,736</td>
<td>13,598</td>
</tr>
<tr>
<td>10,250</td>
<td>63,358</td>
<td>26,696</td>
<td>36,662</td>
<td>30,331</td>
</tr>
<tr>
<td>7,111</td>
<td>2,262</td>
<td>5</td>
<td>2,257</td>
<td>5,758</td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>135</td>
<td>45</td>
<td>90</td>
<td>99</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>1,949</td>
<td>1,708</td>
<td>241</td>
<td>1,881</td>
</tr>
<tr>
<td>61</td>
<td>1,237</td>
<td>1,221</td>
<td>16</td>
<td>1,004</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>253</td>
<td>49</td>
<td>4</td>
<td>108</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>1,375</td>
<td>1,335</td>
<td>40</td>
<td>1,366</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>520</td>
<td>520</td>
<td>—</td>
<td>520</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>1,007</td>
<td>870</td>
<td>137</td>
<td>1,125</td>
</tr>
<tr>
<td>85</td>
<td>1,860</td>
<td>183</td>
<td>1,677</td>
<td>1,300</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>4,574</td>
<td>10</td>
<td>4,564</td>
<td>3,132</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>16,624</td>
<td>368</td>
<td>16,256</td>
<td>11,904</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>31,562</td>
<td>1,726</td>
<td>29,836</td>
<td>29,525</td>
</tr>
<tr>
<td>58</td>
<td>758</td>
<td>—</td>
<td>758</td>
<td>771</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>453</td>
<td>—</td>
<td>453</td>
<td>453</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>99</td>
<td>78</td>
<td>21</td>
<td>99</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>2,009</td>
<td>794</td>
<td>1,215</td>
<td>1,117</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>1,513</td>
<td>—</td>
<td>1,513</td>
<td>1,445</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>616</td>
<td>476</td>
<td>140</td>
<td>616</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>394</td>
<td>250</td>
<td>144</td>
<td>435</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>2,920</td>
<td>2,137</td>
<td>783</td>
<td>1,799</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>857</td>
<td>794</td>
<td>63</td>
<td>327</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>1,065</td>
<td>519</td>
<td>546</td>
<td>962</td>
</tr>
<tr>
<td>—</td>
<td>8,612</td>
<td>1,469</td>
<td>7,123</td>
<td>7,195</td>
</tr>
<tr>
<td>53,903</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>60,072</td>
</tr>
<tr>
<td>1,003</td>
<td>3,832</td>
<td>263</td>
<td>3,569</td>
<td>3,286</td>
</tr>
<tr>
<td>703</td>
<td>3,797</td>
<td>2,163</td>
<td>1,634</td>
<td>3,784</td>
</tr>
<tr>
<td>674</td>
<td>4,476</td>
<td>782</td>
<td>3,694</td>
<td>3,666</td>
</tr>
<tr>
<td>388</td>
<td>1,742</td>
<td>642</td>
<td>1,100</td>
<td>1,611</td>
</tr>
<tr>
<td>760</td>
<td>4,186</td>
<td>93</td>
<td>4,093</td>
<td>3,194</td>
</tr>
<tr>
<td>894</td>
<td>10,479</td>
<td>366</td>
<td>10,113</td>
<td>8,155</td>
</tr>
<tr>
<td>8,293</td>
<td>18,929</td>
<td>8,931</td>
<td>9,998</td>
<td>11,890</td>
</tr>
<tr>
<td>7,249</td>
<td>190,531</td>
<td>154,288</td>
<td>36,243</td>
<td>142,555</td>
</tr>
<tr>
<td>52</td>
<td>1,102</td>
<td>907</td>
<td>195</td>
<td>1,179</td>
</tr>
<tr>
<td>326</td>
<td>37,962</td>
<td>18,386</td>
<td>19,576</td>
<td>37,706</td>
</tr>
<tr>
<td>1,335</td>
<td>4,028</td>
<td>2,446</td>
<td>1,582</td>
<td>2,717</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第19表 各種学校の

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野</th>
<th>計</th>
<th>1年未満</th>
<th>1年以上</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>計 (注1) (注2)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>6,021</td>
<td>5,638</td>
<td>338</td>
<td>0.8 100</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>0.1</td>
<td>100</td>
<td>1.25</td>
<td>982</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>58,009</td>
<td>6,742</td>
<td>51,267</td>
<td>7.4</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>1,950</td>
<td>4,483</td>
<td>10,024</td>
<td>1.9</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>0.8</td>
<td>100</td>
<td>6,519</td>
<td>6,326</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>13.9</td>
<td>100</td>
<td>108,478</td>
<td>41,328</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>16.2</td>
<td>100</td>
<td>126,350</td>
<td>2,584</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>37.4</td>
<td>100</td>
<td>292,135</td>
<td>201,480</td>
</tr>
<tr>
<td>自動車</td>
<td>15.7</td>
<td>100</td>
<td>122,485</td>
<td>68,582</td>
</tr>
<tr>
<td>外国人</td>
<td>5.8</td>
<td>100</td>
<td>45,402</td>
<td>22,583</td>
</tr>
<tr>
<td>計 (注1) (注2)</td>
<td>100,100</td>
<td>781,031</td>
<td>354,595</td>
<td>426,436</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※各県別の分野の区分は、専修学校の分野区分に応じて、次のとおりとした。
なお、8.文化・教養には予備校を含め、9.自動車操縦、10.外国人・他は別扱いとして区分した。
1.工業＝電子計算機、工業、土木建築、無線通信、自動車整備
2.農業＝農業
3.医療＝看護婦、准看護婦、保健婦、助産婦、放射線、臨床検査、歯科衛生、歯科技工、医学技術
4.衛生＝栄養、調理、理容、美容
5.教育・社会福祉＝教員養成、保母養成
6.商業実務＝商業経営、簿記商算、タイピスト、速記
7.家政＝和・洋裁、編物・手芸、家庭、料理
8.文化・教養＝演劇、舞踊、美術、音楽、書道、茶・華道、一般教養、外国語、予備校、宗教
（注1）は、縦の欄の百分比
（注2）は、横の欄の百分比（修業年限別、昼夜別、入学資格別）
<p>| | | | | | | |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>各分野別生徒数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>昼</td>
<td>夜</td>
<td>高卒</td>
<td>高卒以外</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
<td>男</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4,580</td>
<td>299</td>
<td>1,142</td>
<td>1,058</td>
<td>84</td>
<td>4,503</td>
<td>4,185</td>
</tr>
<tr>
<td>982</td>
<td>143</td>
<td>2,356</td>
<td>7,162</td>
<td>17,201</td>
<td>3,506</td>
<td>13,695</td>
</tr>
<tr>
<td>3,604</td>
<td>8,069</td>
<td>2,834</td>
<td>1,955</td>
<td>0.4</td>
<td>0.735</td>
<td>827</td>
</tr>
<tr>
<td>183</td>
<td>4,249</td>
<td>2,087</td>
<td>10</td>
<td>2,077</td>
<td>3.1</td>
<td>98.6</td>
</tr>
<tr>
<td>12,916</td>
<td>24,543</td>
<td>71,019</td>
<td>28,412</td>
<td>42,607</td>
<td>5,471</td>
<td>1200</td>
</tr>
<tr>
<td>2,200</td>
<td>67,988</td>
<td>56,162</td>
<td>384</td>
<td>55,778</td>
<td>24,335</td>
<td>115</td>
</tr>
<tr>
<td>130,482</td>
<td>48,828</td>
<td>112,825</td>
<td>70,998</td>
<td>41,827</td>
<td>143,227</td>
<td>114,424</td>
</tr>
<tr>
<td>33,338</td>
<td>26,734</td>
<td>62,413</td>
<td>35,244</td>
<td>27,169</td>
<td>0.1</td>
<td>0.3</td>
</tr>
<tr>
<td>19,522</td>
<td>20,901</td>
<td>4,979</td>
<td>3,061</td>
<td>1,918</td>
<td>3,074</td>
<td>1,926</td>
</tr>
<tr>
<td>212,193</td>
<td>245,859</td>
<td>322,979</td>
<td>142,402</td>
<td>180,577</td>
<td>206,951</td>
<td>126,889</td>
</tr>
</tbody>
</table>
自動車操縦12万2,485人（15.7％）、簿記・珠算9万6,159人（12.3％）であり、これらの3課程の生徒数で、全各種学校生徒数の56.5％と過半数を占めている。しかもこれらの3課程は、専修学校になっているもののはごくわずかで、ほとんどが各種学校である。和・洋裁、編物・手芸、料理など家政系の各種学校も、合わせて12万人以上と多くを占めている。その他の課程、分野については、医療が5万8,009で、相当数の各種学校在学者数を数えているほか、専修学校に移行した人が多い。外国人学校はすべてが各種学校である。男女別にみると、男子が35万4,596人、女子42万6,436人と女子が若干多い程度であるが、課程、分野別にみると男女の比率にかなり大きな差異がみられる。医療、教育・社会福祉、家政の各分野では女子が多く、外国人学校、自動車操縦では男女がほぼ同数程度。工業、農業では男子の比率が高い。文化・教養では、そのうち大多数を占める予備校の男子生徒数が多いため、女子が9万人に対し男子は20万人と、男子生徒数が2倍以上である。

(3) 修業年限別、男女別生徒数
各種学校は、専修学校よりも修業年限の短いものが多い。修業年限別には、1年未満のものと1年以上のものに、区分している。各種学校生徒総数78万1,031人のうち、5年に当たる82万8,633人は1年以上であり、6年は1年未満である。これをさらに課程、分野別にみると相違があり、自動車操縦はすべてが1年未満であるのをはじめ、商業実務、家政、文化・教養の各分野、課程でも1年未満のものがかなりの数にのぼっている。他方、工業、農業、医療、家政の各分野・課程では、ほとんどが1年以上の在学者となっている。

(4) 昼夜別、男女別生徒数
各種学校の昼間部生徒数45万8,052人（58.6％）に対し、夜間部は32万2,979人（41.4％）である、専修学校と比較すると昼間部在学者の比率が高い。これを各分野、課程別にみるとかなり違いがみられ、昼間部生の実数、比率ともに高いのは文化・教養11万2,825人（34.9％）、商業実務7万1,019人（22.0％）で、両者を合わせて昼間部生徒総数の過半数を占めている。

(5) 入学資格別生徒数
入学資格別には、各種学校生徒数を高卒者を対象としたものと、それ以外のものとに区分している。この区分でみると、各種学校の場合は、専修学校とは異なり、高卒を対象としたものは少なく、20万6,951人（26.5％）である。それ以外のものは57万4,080人（73.5％）と多くを占めている。

高卒を対象とするものは、専修学校の専門課程に相当するものであり、各分野・課程別には、文化・教養が14万3,227人（69.2％）と7割近くを占めている。しかもこのうちの大多数（12万8,901人）は予備校生徒数である。予備校は大学入試のためのものであるので、他の各種学校の場合と異なり、それを除くと、高卒後の各種学校生徒数は、約8万人である。分野別には家政が2万4,335人、ついて医療、1万7,201人と、文化・教養、教育・社会福祉の順となっている。専門学校の生徒総数31万人と、高卒後の各種学校生徒数（予備校を除く）8万人を合わせて39万人となり、高等教育に属する専修学校・各種学校生徒数は、短大学生数38万人を上まわっている。

11. 各分野別にみた各種学校から専修学校への移行状況
第20表は、各分野別に、専修学校と各種学校生徒数の現状を示したものである（各種学校生徒数については、専修学校の分野別区分にもとづいて集計した）。この表により、現在各種学校から専修学校にどの程度が移行しているのか、その実状を把握することができる。そうすると、次の三つの類型別に特長をみることができる。

第20表 専修学校・各種学校生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>専修学校</th>
<th>各種学校</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>57,645 (91.9)</td>
<td>5,638 (8.1)</td>
<td>63,283</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>493 (30.5)</td>
<td>1,125 (69.5)</td>
<td>1,618</td>
</tr>
<tr>
<td>医学</td>
<td>93,226 (61.6)</td>
<td>58,009 (38.4)</td>
<td>151,235</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>36,396 (71.5)</td>
<td>14,507 (28.5)</td>
<td>50,903</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>22,503 (77.5)</td>
<td>6,519 (22.5)</td>
<td>29,022</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>30,095 (21.7)</td>
<td>108,478 (78.3)</td>
<td>138,573</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>127,620 (50.2)</td>
<td>126,350 (49.8)</td>
<td>253,970</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教育</td>
<td>38,635 (11.8)</td>
<td>292,135 (88.2)</td>
<td>330,770</td>
</tr>
<tr>
<td>自動車運転</td>
<td>一</td>
<td>122,485 (100)</td>
<td>122,485</td>
</tr>
<tr>
<td>外国人・他</td>
<td>一</td>
<td>45,402 (100)</td>
<td>45,402</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>406,613</td>
<td>781,031</td>
<td>1,187,644</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(1) 専修学校主導型のもの
工業、医療、衛生、教育・社会福祉の四分野で、いずれも過半数の生徒が専修学校に属している。この分野の専修学校は職業資格取得に関するものが大多数を占め、その資格に係る文部、厚生、郵政などの各官庁の大臣指定をうけた養成（認定）施設であり、修業年限、教育課程、教員資格、施設設備等の基準が個々に定められており、これらの基準は、いずれも専修学校設置基準をかなり上まわるものである。専修学校発足後２年を経た現在、ほとんどの学校は専修学校に移行してもよいであろう。両者の生徒数の比率をみると工業91.5%ではほぼ専修学校への移行を達成している。教育・社会福祉77.5%、衛生71.5%で７割以上であり、かなり専修学校への移行の実態を示しているが、なお今後ともその移行は続くものと思われる。医療は専修学校生徒数９万人以上で、全体の６割を占めてはいるが、なお６万人近くが各種学校にとどまり、今後専修学校に移行する余地はかなり大きい。

(2) 専修学校・各種学校折半型のもの
家政分野の学校で、生徒数ではいずれも12万人以上と、五分五分の割合を占めている。この分野は、洋裁、和裁、編物、手芸など縫製系の学校が主体であり、東京など大都市にあるわずかの大規模校を除けば、多くは小規模校で、学校数は多く全国的に普及している。専修学校発足後、若干の大規模校を除き、多くの小規模校でも専修学校への設置がはい意をもって進められ、設置基準を若干上まわる程度の学校は、専修学校となっている。しかし他方では、編物、和裁、料理などの学校は小規模校がほとんどであり、設施設備、教員資格、修業年限、授業時間数のいずれかの面で専修学校には達しえない学校が多くを占めている。このような実状からみると、専修学校への移行率5割という数字はかなり高い水準とみられ、今後はなおごくゆるかな移行は予測されるものの,
折半型として推移するであろう。

(3) 各種学校主導型のもの

商業実務、文化・教養、農業の各分野の学校である。特に商業実務と文化・教養の分野では、各種学校生徒数の比率が高いが、それぞれ珠算学校、予備校という多くの生徒数を有する学校が含まれているためである。珠算学校はほとんどが修業年限1年未満で各種学校であり、予備校は専修学校の設置基準は十分にみたしているものの、その目的、性格の面から専修学校とはなりにくいものである。事実、専修学校となっているものはわずかである。両分野で専修学校となっているものは多くの学校種類にわたっており、移行状況もなくなり進行しているが、なお今後とも若干は進むであろう。
しかし、珠算、予備校が各種学校にとどまるかぎりは、各種学校主導型であることに、かわりはない。農業は、専修学校・各種学校を合わせてもその絶対数は少ないが、まだ3割が専修学校となっているにすぎない。ただ今後は専修学校への移行が進むば、生徒数の比率が逆転することも予測される。

なお、自動車操縦と外国人学校はすべて各種学校である。
私立専修学校の現状
—昭和53年度私立専修学校実態調査から—

はじめに
全国専修学校各種学校連合会では、昭和51年、52年の両年度にわたり、全国の私立専修学校を対象として実態調査を行い、その結果を、私立専修学校の現状と題してまとめ、53年5月に公表した。
本年度もひきつづき、専修学校教育振興のための基礎資料を得るために調査を行い、その結果をまとめて公表することにした。
なお本年度からは、調査研究の性格により、財団法人専修学校教育振興会の事業のひとつとして行うものである。
調査の時期は53年7月であり、1,900校以上の私立専修学校全校を対象として実施した。その結果は、大多数の学校から協力が得られ、54年1月の時点で、1,692校にのぼった。
第1表にみられるように、9割近くの回収率であった。
調査項目については、昨年度と同様であり、専修学校の学校数、教員数、生徒数、校地校舎、収支実績、年間授業時数、授業例数、学費等の基礎的事項についての実情をみたものである。
調査結果の各項目について、平均を示した数字は、私立専修学校全体のそれをあらわしたものとみなしてよく、合計の数字については、約1割以上を加えたものが、私立専修学校全体の数字をあらわしたものとみてよいであろう。

第1表　私立専修学校、文部省調査と（財）専教振調査の対比

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校数</th>
<th>教員数</th>
<th>生徒数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>本務</td>
<td>兼務</td>
</tr>
<tr>
<td>文部省調査(A)</td>
<td>1,949</td>
<td>16,467</td>
</tr>
<tr>
<td>(財)専教振調査(B)</td>
<td>1,692</td>
<td>13,398</td>
</tr>
<tr>
<td>(B)/(A)100(%)</td>
<td>86.8</td>
<td>81.4</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1．調査結果の概要
第2表は、設置者別に学校数、教員数、生徒数を示したものである。学校数では、総数1,692校のうち、学校教育法第1条に規定する学校との併設校である学校法人立が245校、専修学校で、各種学校を設置する準学校法人立が428校を数え、合わせて673校（40％）である。財団法人、社団法人、社会福祉法人、医療法人、宗教法人、その他を合わせて、学校法人、準学校法人以外の法人立校は372校（21％）である。他方、個人立の専修学校は645校（38％）にのぼっている。各種学校と比較すると、法人立校の占める比率は高いが、個人立専修学校がなお相当数あることは注目されよう。
### 第2表 設置者別、学校数、教員数、生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校数</th>
<th>教 員 数</th>
<th>生 徒 数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>専 任</td>
<td>兼 任</td>
</tr>
<tr>
<td>華学校法人</td>
<td>428</td>
<td>4,541</td>
</tr>
<tr>
<td>学 校 法人</td>
<td>245</td>
<td>2,646</td>
</tr>
<tr>
<td>財 団 法人</td>
<td>114</td>
<td>894</td>
</tr>
<tr>
<td>社 団 法人</td>
<td>125</td>
<td>792</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>17</td>
<td>91</td>
</tr>
<tr>
<td>医 療 法人</td>
<td>27</td>
<td>165</td>
</tr>
<tr>
<td>宗 教 法人</td>
<td>6</td>
<td>45</td>
</tr>
<tr>
<td>個 人</td>
<td>647</td>
<td>3,480</td>
</tr>
<tr>
<td>そ の 他</td>
<td>83</td>
<td>732</td>
</tr>
<tr>
<td>合 計</td>
<td>1,692</td>
<td>13,386</td>
</tr>
</tbody>
</table>

教員数については、専任教員総数 1万 3,386人、兼任教員総数 2万 5,083人、合計 3万 8,465人で、兼任教員が専任よりも1万人以上多い。設置者別には、準学校法人が最も多く、9,708人、ついで学校法人8,028人、社団法人6,374人、個人5,705人の順となっている。これをさらに専任・兼任別にみると、設置者別にその割合はかなり異なっている。社団法人、学校法人では、兼任教員の占める比率が高いが、個人校では、専任教員の占める比率高く、専任主導型の教員構成である。

生徒数は、総数33万人のうち、最も多くは準学校法人で13万6,898人、41.6%を占めている。ついで学校法人が7万人で21%、個人6万5,000人以上で20%近くを占める。男女別には、いずれの設置者も女子が多いが、準学校法人では男、女同数程度となっている。

### 第3表 分野別、学校数、教員数、生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>学校数</th>
<th>教 員 数</th>
<th>生 徒 数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>専 任</td>
<td>兼 任</td>
</tr>
<tr>
<td>工 業</td>
<td>91</td>
<td>5.4</td>
</tr>
<tr>
<td>農 業</td>
<td>5</td>
<td>0.3</td>
</tr>
<tr>
<td>医 療</td>
<td>311</td>
<td>18.4</td>
</tr>
<tr>
<td>衛 生</td>
<td>155</td>
<td>9.2</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>2.5</td>
</tr>
<tr>
<td>商 業 実 務</td>
<td>108</td>
<td>6.4</td>
</tr>
<tr>
<td>家 政</td>
<td>847</td>
<td>50.0</td>
</tr>
<tr>
<td>文 化・教 業</td>
<td>92</td>
<td>5.4</td>
</tr>
<tr>
<td>そ の 他</td>
<td>40</td>
<td>2.4</td>
</tr>
<tr>
<td>合 計</td>
<td>1,692</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第3表は、分野別に学校数、教員数、生徒数を示したものである。学校数では、総数1,692校のうち最も多くを数えているのは、家政分野の専修学校で847校（50%）と、過半数を占める。ついで医療、衛生、商業実務の順となっている。

教員数については、専任、兼任を合わせた合計で、実数の多いのは医療分野の学校で、1万6,400人である。ついで家政8,485人、工業と衛生がそれぞれ3,000人台である。専任・兼任別には、分
野別にその構成比に大きな相違がみられる。兼任教員の実数、比率ともに大きいのは医療分野の学校であり、専修学校の兼任教授員数の過半数を占める1万4,268人のにぼっている。また、医療分野の専任教員2,132人に対しても、著しく高い比率を示しており、兼任教授主導型の教員構成である。家政分野の専修学校は、教員総数8,485人のうち専任5,679人（67%）、兼任2,806人（33%）と専任教員主導型である。他の分野では、医療について農業、教育・社会福祉が兼任教員主導型であり、工業、衛生、文化・教養が、兼任教員が専任をかなり上まわる程度、商業実務では専任、兼任が同数程度である。このように専修学校の専任、兼任別教員構成は、各分野別専修学校のカリキュラム構成と、専攻別教職員の確保、調達状況の相違を主な根拠として、その教員構成比にかなり大きな差異をもたらしている。

生徒数については、総数33万人のうち、多くを占めるのは、家政分野の生徒数で10万8,667人を数えている。ついで工業と医療が各5万人台、衛生、商業実務、文化・教養が3万人台となっている。男女別構成比では、家政と教育・社会福祉のほとんどが女子であり、工業と農業は大多数が男子、その他の分野では、文化・教養は男子が多く、医療、衛生、商業実務では女子が多くなっている。

2. 教職員数の現状

教職員数の現状について、その種類として専任・兼任・補助・事務職員別に、男女別の内訳も含めて集計し、これらを新任・既任別、設置者別、分野別においてみることにした。

以下、これらの項目にしたがい、調査結果からみられる教職員数の現状について考察する。

(1) 新任・既任別にみた場合

第4表 性別、新任・既任別、教職員数

<table>
<thead>
<tr>
<th>性別</th>
<th>新任・既任別</th>
<th>専任</th>
<th>兼任</th>
<th>補助</th>
<th>事務</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>男</td>
<td>新任</td>
<td>463</td>
<td>1,779</td>
<td>196</td>
<td>732</td>
<td>3,170</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>既任</td>
<td>4,393</td>
<td>16,535</td>
<td>562</td>
<td>1,781</td>
<td>23,271</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計</td>
<td>4,856</td>
<td>18,314</td>
<td>758</td>
<td>2,513</td>
<td>26,441</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>新任</td>
<td>778</td>
<td>764</td>
<td>525</td>
<td>482</td>
<td>2,549</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>既任</td>
<td>7,764</td>
<td>6,012</td>
<td>926</td>
<td>2,351</td>
<td>17,053</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計</td>
<td>8,542</td>
<td>6,776</td>
<td>1,451</td>
<td>2,833</td>
<td>19,602</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>新任</td>
<td>1,241</td>
<td>2,543</td>
<td>721</td>
<td>1,214</td>
<td>5,719</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>既任</td>
<td>12,157</td>
<td>22,547</td>
<td>1,488</td>
<td>4,132</td>
<td>40,324</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>計</td>
<td>13,398</td>
<td>25,090</td>
<td>2,209</td>
<td>5,346</td>
<td>46,043</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第4表は、教職員数を、新任・既任別、性別にみたものである。私立専修学校教職員総数4万6,043人のうち、既任者は4万324人で87.6%を占めている。新任者（53年度新採用者）は5,719人で12.4%である。性別にみると、男子の新任教職員が3,170人（6.9％）で、女子の新任教員を若干上まっている。教職員の種類別にみてみ、新任、既任の比率に大きな差異はみられないが、補助教員の場合には当然のことながら、新任者の比率は高く仮にのぼっている。ついで事務職員の場
合にも新任者の比率は高く、23％となっている。他方、専任教員では、新任者が1,241人で9.2％、兼任教員では2,543人で10.1％となっており、専任・兼任別にはほとんど差がみられない。性別にみてても、それほど大きな差異はみられず、差異的で男子の新任者の比率が高くなっている。

(2) 設置者別にみた場合

第5表は、設置者別に教職員の種類をみたものである。教職員総数4万6,025人のうち最も多くを占めるのは、準学校法人の教職員で1万2,353人、ついで学校法人9,534人で、合わせて、全体の半数近くを占める。県内は7,630人である。教職員の種類別には、設置者による差異がみられることである。専任・兼任別構成比では、学校法人校で兼任教員の比率が高いのをはじめ、団体法人、社会福祉法人、医療法人校でも、兼任教員の構成比がきわめて高い。これに対し、準学校法人校では、兼任教員が若干多い程度、県内校では専任教員の構成比が高くなっている。

第5表 設置者別、教職員数

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>学校数</th>
<th>専任教</th>
<th>兼任教</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>428</td>
<td>2,225</td>
<td>2,316</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>245</td>
<td>997</td>
<td>1,649</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>114</td>
<td>322</td>
<td>572</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>125</td>
<td>158</td>
<td>634</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>17</td>
<td>14</td>
<td>77</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>27</td>
<td>45</td>
<td>120</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>22</td>
<td>23</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>647</td>
<td>800</td>
<td>2,680</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>83</td>
<td>271</td>
<td>461</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>4,854</td>
<td>8,532</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(3) 分野別にみた場合

第6表は、分野別に教職員の種類をみたものである。教職員総数について、分野別に最も多くのは医療で1万7,880人（39％）、ついで家政1万1,021人（24％）であり、両分野を合わせると教職員総数の63％を占める。他の分野はかなり少なく、2,000人～4,000人程度である。教職員の種類による構成別にみると、かなり大きな差異があり、各分野ごとの比率からもみられるように、医療
第6表 分野別教職員数

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>学校数</th>
<th>専任</th>
<th>任</th>
<th>兼任</th>
<th>任</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>91</td>
<td>1,320</td>
<td>36</td>
<td>1,356</td>
<td>34.2</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5</td>
<td>34</td>
<td>1</td>
<td>35</td>
<td>20.0</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>311</td>
<td>592</td>
<td>1,540</td>
<td>2,132</td>
<td>11.9</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>155</td>
<td>612</td>
<td>634</td>
<td>1,246</td>
<td>32.4</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>271</td>
<td>233</td>
<td>504</td>
<td>26.4</td>
</tr>
<tr>
<td>商業 実務</td>
<td>108</td>
<td>629</td>
<td>222</td>
<td>851</td>
<td>40.5</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>847</td>
<td>342</td>
<td>5,337</td>
<td>5,679</td>
<td>51.5</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>650</td>
<td>300</td>
<td>950</td>
<td>30.4</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>40</td>
<td>406</td>
<td>239</td>
<td>645</td>
<td>31.5</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>4,856</td>
<td>8,542</td>
<td>13,398</td>
<td>29.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>補助</th>
<th>事務</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>238</td>
<td>15</td>
<td>307</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>11</td>
<td>0</td>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>180</td>
<td>162</td>
<td>342</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>107</td>
<td>250</td>
<td>357</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>17</td>
<td>23</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td>商業 実務</td>
<td>42</td>
<td>53</td>
<td>95</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>28</td>
<td>869</td>
<td>897</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>97</td>
<td>48</td>
<td>145</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>38</td>
<td>31</td>
<td>69</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>758</td>
<td>1,451</td>
<td>2,209</td>
</tr>
</tbody>
</table>

分野の兼任教職員数のきわめて多いことが特徴的である。ついで、教育・社会福祉、文化・教養の分野など、カリキュラム構成が多彩であり、多くの教科を教える分野の学校では、兼任教員の占める比率が高い。他方、服裝を主体とする実技中心の家政分野の学校では、専任教員の占める比率が高い。補助教員についてみると、総数2,209人のうち家政が897人と多くを占め、ついで衛生、医療となっている。ここにみられるように、補助教員は、主として実技実習をとめると、教科の多い分野の学校が必要なことを示している。事務職員については、各分野とも、ほぼ生徒数に応じた数となっている。

(4) 設置者別平均教職員数

第7表は、設置者別に平均教職員数をみたものである。まず、全体でみると1学校当たり平均教職員数は27.2人、種類別には、専任教員7.9人、兼任教員14.8人、補助教員1.3人、事務職員3.1人である。これを設置者別にみると、教職員総数についても、その種類別の内訳についても、かなり大きな差異がみられる。教職員総数で多いのは医療法人の54.6人をはじめ、社団法人53.5人、社会福祉法人43.5人である。これらの設置者の教職員の内訳は、兼任教職員がきわめて多い。学校法人では平均教職員数38.9人のうち、専任教員10.8人、兼任教員21.9人である。準学校法人では28.8人のうち、それぞれ10.6人と12.0人がとなっている。個人校では、平均教職員数11.7人と少なく、専
第7表 設置者別平均教職員数

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>学校数</th>
<th>1学校当たり平均教職員数</th>
<th>教職員総数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>428</td>
<td>専任 10.6 兼任 12.0 補助 1.8 事務 4.3 計 28.8</td>
<td>12,353</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>245</td>
<td>専任 10.8 兼任 21.9 補助 1.6 事務 4.4 計 38.9</td>
<td>9,534</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>114</td>
<td>専任 7.8 兼任 15.0 補助 1.4 事務 3.1 計 27.4</td>
<td>3,128</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>125</td>
<td>専任 6.3 兼任 44.6 補助 0.3 事務 2.1 計 53.5</td>
<td>6,691</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>17</td>
<td>専任 5.3 兼任 34.5 補助 0.9 事務 2.4 計 43.2</td>
<td>736</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>27</td>
<td>専任 6.1 兼任 43.0 補助 2.9 事務 2.5 計 54.6</td>
<td>1,476</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>専任 7.5 兼任 7.3 補助 0.1 事務 2.3 計 17.3</td>
<td>104</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>647</td>
<td>専任 5.3 兼任 3.4 補助 0.9 事務 2.0 計 11.7</td>
<td>7,630</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>83</td>
<td>専任 8.8 兼任 38.8 補助 1.0 事務 4.0 計 52.6</td>
<td>4,373</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>専任 7.9 兼任 14.8 補助 1.3 事務 3.1 計 27.2</td>
<td>46,025</td>
</tr>
</tbody>
</table>

任教員5.3人、兼任教員3.4人である。補助教員や事務職員については、各設置者別の生徒数に応じた数となっている。

(5) 分野別平均教職員数

第8表は、分野別に1学校当たり平均教職員数を示したものである。平均教職員総数では医療分野の57.4人が最も多く、ついで教育・社会福祉の44.2人、工業43.4人である。家政の13.0人が少ない。教職員の種類別には兼任教員数についても大きな差異がみられる。医療の45.8人が最も多く、ついで教育・社会福祉26.0人、農業20.2人となっている。家政は3.3人とわずかである。専任教員、事務員については、各分野ともほぼ生徒数に応じた数値を示している。

第8表 分野別平均教職員数

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>学校数</th>
<th>1学校当たり平均教職員数</th>
<th>教職員総数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>91</td>
<td>専任 14.9 兼任 19.5 補助 2.7 事務 6.2 計 43.4</td>
<td>3,997</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5</td>
<td>専任 7.0 兼任 20.2 補助 2.2 事務 5.6 計 35.0</td>
<td>175</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>311</td>
<td>専任 6.8 兼任 45.8 補助 1.0 事務 3.6 計 57.4</td>
<td>17,880</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>155</td>
<td>専任 8.0 兼任 11.4 補助 2.3 事務 2.9 計 24.7</td>
<td>3,839</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>専任 11.7 兼任 26.0 補助 0.9 事務 5.6 計 44.2</td>
<td>1,904</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>108</td>
<td>専任 7.8 兼任 7.6 補助 0.8 事務 2.9 計 19.4</td>
<td>2,098</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>847</td>
<td>専任 6.7 兼任 3.3 補助 1.0 事務 1.9 計 13.0</td>
<td>11,021</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>専任 10.3 兼任 15.4 補助 1.5 事務 6.5 計 33.9</td>
<td>3,125</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>40</td>
<td>専任 16.1 兼任 24.6 補助 1.7 事務 8.6 計 51.1</td>
<td>2,044</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>専任 7.9 兼任 14.8 補助 1.3 事務 3.1 計 27.2</td>
<td>46,043</td>
</tr>
</tbody>
</table>

3. 生徒数の現状

(1) 設置者別にみた場合

第9表は、生徒数について、設置者別に男女別に示したものである。まず、生徒定員をみると、総定員39万133人のうち多くを占めるのは準学校法人で15万8,749人（47%）、ついで個人9万1,708人、学校法人7万6,327人である。昼間別の定員数では、昼間部28万9,087人、夜間部
### 第9表 設置者別生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>総合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>119,042</td>
<td>54,030</td>
<td>59,362</td>
<td>113,392</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>57,126</td>
<td>19,201</td>
<td>3,018</td>
<td>55,170</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>17,083</td>
<td>3,927</td>
<td>1,233</td>
<td>16,610</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>16,597</td>
<td>1,939</td>
<td>3,555</td>
<td>15,059</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>1,617</td>
<td>3</td>
<td>682</td>
<td>1,199</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>2,420</td>
<td>280</td>
<td>393</td>
<td>2,559</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>510</td>
<td>205</td>
<td>159</td>
<td>447</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>61,433</td>
<td>36,651</td>
<td>48,256</td>
<td>48,256</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>13,259</td>
<td>8,294</td>
<td>11,956</td>
<td>11,956</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>289,087</td>
<td>85,924</td>
<td>179,032</td>
<td>264,956</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 第10表 分野別生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>総合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>38,495</td>
<td>41,447</td>
<td>3,045</td>
<td>44,492</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>390</td>
<td>336</td>
<td>30</td>
<td>366</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>49,221</td>
<td>34,367</td>
<td>39,521</td>
<td>42,696</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>28,178</td>
<td>14,773</td>
<td>23,667</td>
<td>28,178</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>6,880</td>
<td>10,699</td>
<td>11,160</td>
<td>15,899</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>27,231</td>
<td>20,601</td>
<td>30,451</td>
<td>30,451</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>119,559</td>
<td>83,363</td>
<td>84,119</td>
<td>177,482</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教育</td>
<td>28,133</td>
<td>11,884</td>
<td>27,805</td>
<td>27,805</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>289,087</td>
<td>85,924</td>
<td>179,032</td>
<td>264,956</td>
</tr>
</tbody>
</table>
10万1,046人であり、昼間部定員の比率が高い。設置別にも拠同様の比率を示しているが、個人校では、夜間部の比率が3割を超え、若干高くなっている。

生徒実数では、総数32万9,512人のうち、総学校法人が13万6,898人（41.5％）が多く、ついで学校法人6万9,115人（20.9％）、個人6万5,495人（19.8％）となっている。男女別にみると、いずれの設置者についても女子が多いため、男子の比率が比較的高いのは総学校法人で、男子生徒数のうちの過半数を占めている。昼夜別にみると、昼間部生徒数26万4,956人のうち、多いのは総学校法人の11万3,392人（42.7％）で、ついで学校法人5万5,170人（20.8％）、個人4万8,256人（18.2％）となっている。夜間部の場合も拠同様に、生徒数6万4,556人のうち総学校法人2万3,506人（36.4％）、個人1万7,239人（26.7％）、学校法人1万3,945人（21.6％）となっている。昼間部と比較して、夜間部では個人立生徒数の比率が若干高い。

生徒定員に対する生徒数の割合をみると、全体では充足率（生徒数／生徒定員×100％）は84.5％で、生徒数は定員にみたない。しかし、設置者別には若干異なっており、財団法人、社団法人、社会福祉法人では、ほぼ定員数を充足し、学校法人でも9割近くの充足率であるのに対し、個人校では、充足率は7割を若干超える程度である。昼夜別に定員に対する充足率をみると、昼間部は9割近くの充足率であるのに対し、夜間部は64％にとどまっている。近年の昼間部生徒数の減少をあらわすものであろう。

(2) 分野別にみた場合

第10表は、分野別に生徒数の現状をみたものである。生徒定員39万133人のうち、多くを占めるのは家政で16万9,127人、ついで工業と医療がそれぞれ5万人前後である。生徒実数では総数32万9,512人のうち、家政が10万8,667人（32.9％）で多く、ついで工業5万3,620人、医療5万3,278人の順となっている。定員に対する生徒数の割合をみると、全体では充足率が84.5％で定員にみたない。しかし、分野別にみるとかなり異なっている。実数が定員を上まわっている分野は、教育・社会福祉をはじめ、医療と工業、商業実務であり、職業資格や検定に関連して、近年志願者の多い分野の学校である。他方、定員よりも実数が下まわるのは、家政と衛生であり、特に、家政では6万人も定員を下まわっている実情である。

昼間部、夜間部別には、全般的には前項でもみたように、昼間部よりも夜間部のほうが定員に対する充足率は低い。また、各分野によって若干の違いをみせている。昼間部では、家政と衛生が定員にみたない程度であり、夜間部では、家政が定員の半数程度となっている。

昼間部生徒数26万4,956人のうち、多いのは家政の8万4,119人、ついで工業4万4,492人、医療4万2,696人となっている。夜間部でも同様に、家政2万4,548人、医療1万582人、工業9,128人である。

(3) 課程別、学年別、昼夜別にみた場合

第11表は、課程別、昼夜別、学年別に生徒数をみたものである。

課程別には、専門課程生徒数24万8,354人で最も多く、ついで高等課程5万5,802人、一般課程2万5,356人となっている。昼夜別には、いずれも昼間部生徒数が多く、男女別にはいずれも女子が多い。

— 36 —
<table>
<thead>
<tr>
<th>高等 課程</th>
<th>学年</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>計</th>
<th>学年</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>29,765</td>
<td>5,431</td>
<td>18,775</td>
<td>24,206</td>
<td>1,539</td>
<td>1,661</td>
<td>2,575</td>
<td>4,236</td>
<td>1</td>
<td>146,223</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>17,918</td>
<td>2,115</td>
<td>12,881</td>
<td>14,996</td>
<td>5,418</td>
<td>981</td>
<td>1,631</td>
<td>2,612</td>
<td>2</td>
<td>102,043</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>11,189</td>
<td>1,232</td>
<td>7,289</td>
<td>8,521</td>
<td>806</td>
<td>64</td>
<td>258</td>
<td>322</td>
<td>3</td>
<td>28,030</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>965</td>
<td>108</td>
<td>714</td>
<td>822</td>
<td>351</td>
<td>0</td>
<td>87</td>
<td>87</td>
<td>4</td>
<td>3,799</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>8,886</td>
<td>39,659</td>
<td>48,545</td>
<td>14,114</td>
<td>2,706</td>
<td>4,551</td>
<td>7,257</td>
<td>280,095</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>59,837</td>
<td>88,613</td>
<td>159,741</td>
<td>248,354</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>専門 課程</th>
<th>学年</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>計</th>
<th>学年</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>112,742</td>
<td>44,956</td>
<td>70,233</td>
<td>115,189</td>
<td>33,481</td>
<td>9,751</td>
<td>13,865</td>
<td>23,616</td>
<td>1</td>
<td>37,304</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>74,634</td>
<td>23,039</td>
<td>45,056</td>
<td>68,095</td>
<td>27,409</td>
<td>6,818</td>
<td>11,122</td>
<td>17,940</td>
<td>2</td>
<td>23,336</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>19,108</td>
<td>1,930</td>
<td>13,068</td>
<td>14,998</td>
<td>8,922</td>
<td>1,506</td>
<td>4,700</td>
<td>6,206</td>
<td>3</td>
<td>11,995</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>1,885</td>
<td>206</td>
<td>1,145</td>
<td>1,351</td>
<td>1,914</td>
<td>407</td>
<td>552</td>
<td>959</td>
<td>4</td>
<td>1,316</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>208,369</td>
<td>70,131</td>
<td>129,502</td>
<td>199,633</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>71,726</td>
<td>18,482</td>
<td>30,239</td>
<td>48,721</td>
<td>73,951</td>
<td>11,592</td>
<td>44,210</td>
<td>55,802</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>一般 課程</th>
<th>学年</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>計</th>
<th>学年</th>
<th>定員</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
<td></td>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>16,124</td>
<td>6,884</td>
<td>6,824</td>
<td>13,708</td>
<td>8,940</td>
<td>913</td>
<td>4,372</td>
<td>5,285</td>
<td>1</td>
<td>25,064</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>3,541</td>
<td>23</td>
<td>2,239</td>
<td>2,262</td>
<td>4,916</td>
<td>168</td>
<td>2,388</td>
<td>2,556</td>
<td>2</td>
<td>8,457</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>1,156</td>
<td>0</td>
<td>789</td>
<td>789</td>
<td>970</td>
<td>3</td>
<td>543</td>
<td>546</td>
<td>3</td>
<td>2,126</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>60</td>
<td>0</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
<td>380</td>
<td>9</td>
<td>182</td>
<td>191</td>
<td>4</td>
<td>440</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>20,881</td>
<td>6,907</td>
<td>9,871</td>
<td>16,778</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>15,206</td>
<td>1,093</td>
<td>7,485</td>
<td>8,578</td>
<td>36,087</td>
<td>8,000</td>
<td>17,356</td>
<td>25,356</td>
</tr>
</tbody>
</table>
専門課程生徒数を学年別にみると、総数約25万人のうち、1学年が14万人で最も多く、ついて2学年8万6,035人、3学年以上はわずかである。専門学校の在校学年限が、実際に短いことを示すものである。しかし、男女別には異なっており、男子の場合は、1学年、2学年ともに5万人以上で、同数程度であるが、男子生徒のうち、多くを占める工業系学校のほとんどが、見学期限2年となっているためである。しかし、3学年以上については、男子生徒は1割以内とわずかであるのに対し、女子は1割以上と比較的多くなっている。

高等課程生徒数を学年別にみると、総数4万8,545人の中、多くを占めるのは1学年で、2万4,206人と半数程度である。ついて2年が1万4,996人、3年は8,521人と少なくなっている。男女別には、女子のほうが2年次以上在学者の比率が若干高い。

一般課程は、専門、高等の両課程より修業年限は短く、総数1万6,778人のうち、大半を占める1万3,708人は、1年次在学であり、2年次以降は3,000人程度と、わずかを占めるにすぎない。

4. 校地、校舎面積の現状

専修学校の施設として、まずとあげられるのは校地、校舎である。この調査では、専修学校の校地面積、校舎面積をみるとした。

第12表〜第18表は、設置者別、分野別に専修学校の校地面積と校舎面積を、総計と1校当たり平均で示したものである。

これらの表により、私立専修学校が、どのような施設環境のもとにあるのか、その実態を把握することができる。

（1）設置者別合計でみた場合

第12表は設置者別に校地面積、校舎面積の現状を合計で示したものである。校地面積、校舎面積いずれについても、自己所有地、借用地別に、さらにそれぞれを専用地、共用地別に区分して示した。

まず校地面積では、私立専修学校1,667校の総面積は729万6,592㎡である。自己所有地655万8,870㎡、借用地73万7,722㎡と9割は自己所有であるが、若干の借用地もある。自己所有地のうち、専用地は341万5万5,975㎡で52%、共用地は314万2万8,895㎡で48%を占め、共用地の占める比率も約半分とかなり高くなっている。自己所有地を設置者別にみると、学校法人校241校の総面積が400万㎡以上で、全体の61.8%を占め最も広い。ついて準学校法人校425校の85万㎡（12.9%）である。これらに対し個人校は、自己所有面積がせまく、639校で29万㎡（4.4%）にとどまっている。専用地、共有地別には設置者別に割合はかなり異なり、専用地では学校法人160万㎡で46.8%、準学校法人78万㎡（22.9%）である。しかし、共用地では、一条校を併設する学校法人校の占める比率は高く、245万㎡で共用地の78.1%を占め、また、学校法人校の専用地、共用地別にみても、共用地の面積が広くなっている。借用地についても、74万㎡のうち多いのは学校法人24万㎡（32.8%）、準学校法人19万㎡（26.0%）で、合わせて全体の6割近くを占めている。個人校639校の借用地も11万㎡にのぼっている。借用地のうちの専用・共用別には、それぞれ49万㎡、25万㎡で
<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有地</th>
<th>借用地</th>
<th>合計</th>
<th>(比率)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>89</td>
<td>413,202</td>
<td>194,827</td>
<td>608,029</td>
<td>9.2</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5</td>
<td>1,169,120</td>
<td>517,080</td>
<td>1,686,200</td>
<td>25.7</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>299</td>
<td>472,230</td>
<td>1,181,679</td>
<td>1,653,909</td>
<td>25.2</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>153</td>
<td>151,688</td>
<td>103,195</td>
<td>254,883</td>
<td>3.8</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>131,990</td>
<td>147,212</td>
<td>279,202</td>
<td>4.2</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>106</td>
<td>102,556</td>
<td>20,349</td>
<td>122,905</td>
<td>1.8</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>843</td>
<td>666,236</td>
<td>972,880</td>
<td>1,636,116</td>
<td>24.9</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>227,186</td>
<td>2,848</td>
<td>230,034</td>
<td>3.5</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>37</td>
<td>81,767</td>
<td>2,825</td>
<td>84,592</td>
<td>1.2</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,667</td>
<td>3,415,975</td>
<td>3,142,895</td>
<td>6,558,870</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有校舎</th>
<th>借用校舎</th>
<th>合計</th>
<th>(比率)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>90</td>
<td>193,788</td>
<td>49,248</td>
<td>243,036</td>
<td>7.1</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5</td>
<td>12,332</td>
<td>4,677</td>
<td>17,009</td>
<td>0.5</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>311</td>
<td>441,585</td>
<td>70,201</td>
<td>511,786</td>
<td>15.1</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>155</td>
<td>148,056</td>
<td>33,671</td>
<td>181,727</td>
<td>5.3</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>66,373</td>
<td>18,956</td>
<td>85,329</td>
<td>2.5</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>107</td>
<td>96,156</td>
<td>10,172</td>
<td>106,328</td>
<td>3.1</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>846</td>
<td>1,238,365</td>
<td>174,832</td>
<td>1,413,197</td>
<td>41.7</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>730,845</td>
<td>6,084</td>
<td>736,929</td>
<td>21.7</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>40</td>
<td>88,660</td>
<td>809</td>
<td>89,469</td>
<td>2.6</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,689</td>
<td>3,016,160</td>
<td>368,650</td>
<td>3,384,810</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第13表 設置者別、校地・校舎面積（1学校当たり平均）

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者名</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有校地</th>
<th>校地面積（㎡）</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>専用地</td>
<td>共用地</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>425</td>
<td>1,850.3</td>
<td>154.6</td>
<td>2,000.3</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>241</td>
<td>6,635.5</td>
<td>10,232.3</td>
<td>16,825.4</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>113</td>
<td>1,075.8</td>
<td>181.2</td>
<td>1,257.0</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>123</td>
<td>948.9</td>
<td>220.3</td>
<td>1,165.7</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>15</td>
<td>808.2</td>
<td>1,312.5</td>
<td>2,120.8</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>26</td>
<td>1,361.0</td>
<td>50.7</td>
<td>1,411.8</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>620.3</td>
<td>280.5</td>
<td>900.8</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>639</td>
<td>434.1</td>
<td>21.5</td>
<td>454.9</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>79</td>
<td>5,895.6</td>
<td>6,809.4</td>
<td>12,705.1</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,667</td>
<td>2,051.6</td>
<td>2,051.6</td>
<td>4,103.2</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者名</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有校舎</th>
<th>校舍面積（㎡）</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>専用校舎</td>
<td>共用校舎</td>
<td>計</td>
</tr>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>428</td>
<td>1,402.7</td>
<td>106.8</td>
<td>1,599.3</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>245</td>
<td>7,152.1</td>
<td>1,141.1</td>
<td>8,288.6</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>114</td>
<td>862.9</td>
<td>133.9</td>
<td>996.9</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>125</td>
<td>907.1</td>
<td>94.7</td>
<td>1,001.1</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>17</td>
<td>1,063.1</td>
<td>51.0</td>
<td>1,114.2</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>27</td>
<td>1,005.8</td>
<td>69.3</td>
<td>1,075.1</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>603.3</td>
<td>2.0</td>
<td>605.3</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>645</td>
<td>396.7</td>
<td>9.9</td>
<td>406.6</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>82</td>
<td>1,805.0</td>
<td>103.4</td>
<td>1,908.5</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,689</td>
<td>1,786.8</td>
<td>218.9</td>
<td>2,005.2</td>
</tr>
</tbody>
</table>
あるが、設置者別にはかなり大きな差異がある。共用地の広いのは、学校法人校で16万㎡以上と全体の約9％を占めている。専用地では準学校法人16万㎡（33.2％）、個人10万㎡（20.4％）の順である。校地面積の合計でみると730万㎡のうち、多いのは学校法人430万㎡（58.8％）、ついて準学校法人104万㎡（14.2％）もある。専用地・共用地別には、当然、学校法人校の共用地に占める比率は高く（77.3％）、専用地では学校法人168万㎡（42.9％）、準学校法人95万㎡（24.2％）である。個人校では、専用地38万㎡（9.6％）であるのに対し、共用地は2万4,000㎡（0.7％）と専用地の占める比率はきわめて高い。

校舍面積については、私立専修学校1,689校の総面積は355万6,863㎡であり、校地総面積の1/4程度である。このうち専用校舎、318万㎡、共用校舎38万㎡で、共用校舎面積も全体の1割以上にのぼっている。自己所有校舎が338万4,810㎡（95％）で大多数を占めるが、借用校舎も17万2,053㎡（5％）にのぼっている。自己所有校舎338万6,793㎡のうち多くを占めるのは、学校法人245校で203万㎡と全体の6割に達している。ついで準学校法人428校の65万㎡（19.0％）、個人校645校の26万㎡（7.7％）である。これをさらに専用校舎、共用校舎別にみると、校地面積の場合と同様に、学校法人校で共用校舎の占める面積と比率が高く、個人校ではほとんどが専用校舎である。借用校舎についてみると、設置者別にかなり分散しており、建築法人3万9,000㎡（22.7％）をはじめ、個人3万6,000㎡（20.9％）財団法人3万3,000㎡（19.0％）、準学校法人3万1,000㎡（17.8％）である。専用地・共用地的には共用校舎の比率の高いのは、社団法人36.7％、個人34.1％である。

(2) 設置者別1校当たり平均でみた場合

第13表は、設置者別に校地面積、校舎面積の現状を1校当たり平均で示したものである。私立専修学校1,667校の1校当たり平均校地面積は4,382.5㎡であり、約1,330坪である。このうち専用地は2,346.5㎡、共用地は2,039.6㎡であり、共用地の占める比率は47％にものぼっている。また自己所有地は3,939.2㎡、借用地443㎡である。

自己所有地について、設置者別に1校当たり平均校舍面積をみると、設置者に大きな相違がみられる。広いのは、学校法人で1万6,825㎡である。準学校法人は2,000㎡、その他の法人校も1,000㎡前後か、それを上まわっているが、個人校は455㎡にとどまっている。専用地・共用地別の内訳でみると、共用地面積の広いのは、学校法人6,635.5㎡をはじめ、その他5,895.6㎡であり、個人校は434.1㎡にとどまっている。共用地では、学校法人が1万㎡を超え、ついてその他6,809.4㎡である。借用地は、全体では1校平均443㎡であるが、社団法人2,869.1㎡、学校法人1,008.8㎡など借用地面積は広い。

なお、校地面積と校舎面積の関係について、全体では校地面積が校舎面積の約2倍となっているが、設置者別にはかなりの相違を示している。学校法人では校地面積が校舎面積の2倍以上、その他でも大幅に上まわっている。他方、個人校では校地面積は校舎面積の1.3倍程度である。

(3) 分野別合計でみた場合

第14表は分野別に校地面積、校舎面積の現状を合計で示したものである。設置者別の場合と同様に、いずれも自己所有地、借用地別、専用地・共用地別に示した。

校地面積について分野別に広い順からみると、医療299校の184万5,692㎡（25.2％）、家政843

— 41 —
第14表 設置者別、校地・校舎面積（合計）

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有地</th>
<th>借用地</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>425</td>
<td>784,566</td>
<td>65,581</td>
<td>850,147</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>312,233</td>
<td>28,963</td>
<td>192,186</td>
<td>497,789</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>241</td>
<td>1,599,162</td>
<td>2,455,722</td>
<td>4,054,934</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>77,395</td>
<td>164,735</td>
<td>242,130</td>
<td>1,676,557</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>113</td>
<td>121,575</td>
<td>20,477</td>
<td>142,052</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>54,220</td>
<td>4,663</td>
<td>58,883</td>
<td>175,795</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>123</td>
<td>116,724</td>
<td>26,659</td>
<td>143,383</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>49,499</td>
<td>15,197</td>
<td>64,696</td>
<td>166,223</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>15</td>
<td>12,124</td>
<td>19,688</td>
<td>31,812</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>32,851</td>
<td>10,186</td>
<td>43,037</td>
<td>44,975</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>26</td>
<td>35,388</td>
<td>1,320</td>
<td>36,708</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>6,949</td>
<td>12,656</td>
<td>19,605</td>
<td>42,337</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>3,722</td>
<td>1,883</td>
<td>5,405</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>812</td>
<td>0</td>
<td>812</td>
<td>4,554</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>639</td>
<td>276,959</td>
<td>13,765</td>
<td>290,724</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>100,376</td>
<td>110,405</td>
<td>100,376</td>
<td>401,129</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>79</td>
<td>465,755</td>
<td>537,950</td>
<td>1,003,705</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>5,473</td>
<td>495</td>
<td>5,968</td>
<td>471,228</td>
</tr>
</tbody>
</table>

合計 | 1,667 | 3,415,975 | 3,142,895 | 6,558,870 |

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有校舎</th>
<th>借用校舎</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>428</td>
<td>600,374</td>
<td>45,611</td>
<td>645,985</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>29,014</td>
<td>1,652</td>
<td>30,666</td>
<td>629,388</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>245</td>
<td>1,752,272</td>
<td>278,444</td>
<td>2,030,716</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>10,027</td>
<td>690</td>
<td>10,717</td>
<td>2,172,299</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>114</td>
<td>98,378</td>
<td>15,275</td>
<td>113,633</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>32,325</td>
<td>407</td>
<td>32,732</td>
<td>160,703</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>125</td>
<td>113,397</td>
<td>11,743</td>
<td>125,140</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>34,687</td>
<td>4,519</td>
<td>39,206</td>
<td>158,099</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>17</td>
<td>18,074</td>
<td>18,942</td>
<td>36,016</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>19,361</td>
<td>824</td>
<td>20,185</td>
<td>37,435</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>27</td>
<td>26,153</td>
<td>1,802</td>
<td>27,955</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>970</td>
<td>0</td>
<td>970</td>
<td>27,125</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>3,620</td>
<td>0</td>
<td>3,620</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>3,620</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>645</td>
<td>255,879</td>
<td>6,411</td>
<td>262,290</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>31,771</td>
<td>4,204</td>
<td>35,975</td>
<td>298,625</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>82</td>
<td>148,013</td>
<td>8,484</td>
<td>156,497</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>1,602</td>
<td>0</td>
<td>1,602</td>
<td>149,615</td>
</tr>
</tbody>
</table>

合計 | 1,689 | 3,016,160 | 3,384,810 | 6,397,970 |
第15表 分野別，校地・校舎面積（1学校当たり平均）

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有地</th>
<th>校地面積（㎡）</th>
<th>借用地地</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>専用地</td>
<td>共用地</td>
<td>計</td>
<td>専用地</td>
</tr>
<tr>
<td>工 業</td>
<td>89</td>
<td>4,642.7</td>
<td>2,189.0</td>
<td>6,831.7</td>
<td>1,496.7</td>
</tr>
<tr>
<td>農 業</td>
<td>5</td>
<td>233,824.0</td>
<td>103,416.0</td>
<td>337,240.0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>医 療</td>
<td>299</td>
<td>1,579.3</td>
<td>3,978.7</td>
<td>5,531.4</td>
<td>393.4</td>
</tr>
<tr>
<td>衛 生</td>
<td>153</td>
<td>991.4</td>
<td>683.4</td>
<td>1,665.9</td>
<td>93.4</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>3,069.5</td>
<td>3,423.5</td>
<td>6,493.0</td>
<td>539.0</td>
</tr>
<tr>
<td>商 業 実 務</td>
<td>106</td>
<td>976.7</td>
<td>193.8</td>
<td>1,159.4</td>
<td>141.8</td>
</tr>
<tr>
<td>家 政</td>
<td>843</td>
<td>790.3</td>
<td>1,154.0</td>
<td>1,944.3</td>
<td>151.2</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>2,496.5</td>
<td>30.9</td>
<td>2,500.3</td>
<td>357.6</td>
</tr>
<tr>
<td>そ の 他</td>
<td>37</td>
<td>2,209.9</td>
<td>76.3</td>
<td>2,286.2</td>
<td>746.4</td>
</tr>
<tr>
<td>合 計</td>
<td>1,667</td>
<td>2,051.6</td>
<td>1,891.0</td>
<td>3,942.6</td>
<td>294.9</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>学校数</th>
<th>自己所有校舎</th>
<th>校舎面積（㎡）</th>
<th>借用校舎</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>専用校舎</td>
<td>共用校舎</td>
<td>計</td>
<td>専用校舎</td>
</tr>
<tr>
<td>工 業</td>
<td>90</td>
<td>2,153.2</td>
<td>547.2</td>
<td>2,700.4</td>
<td>205.9</td>
</tr>
<tr>
<td>農 業</td>
<td>5</td>
<td>2,466.4</td>
<td>935.4</td>
<td>3,401.8</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>医 療</td>
<td>311</td>
<td>1,424.4</td>
<td>227.1</td>
<td>1,650.9</td>
<td>287.8</td>
</tr>
<tr>
<td>衛 生</td>
<td>155</td>
<td>955.2</td>
<td>220.0</td>
<td>1,174.2</td>
<td>38.7</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>1,543.5</td>
<td>440.8</td>
<td>1,984.3</td>
<td>88.8</td>
</tr>
<tr>
<td>商 業 実 務</td>
<td>107</td>
<td>889.6</td>
<td>95.9</td>
<td>985.7</td>
<td>43.6</td>
</tr>
<tr>
<td>家 政</td>
<td>846</td>
<td>1,463.7</td>
<td>206.6</td>
<td>1,670.4</td>
<td>24.7</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>7,943.9</td>
<td>66.1</td>
<td>8,010.0</td>
<td>132.4</td>
</tr>
<tr>
<td>そ の 他</td>
<td>40</td>
<td>2,216.5</td>
<td>20.2</td>
<td>2,236.7</td>
<td>133.5</td>
</tr>
<tr>
<td>合 計</td>
<td>1,689</td>
<td>1,786.8</td>
<td>218.9</td>
<td>2,005.2</td>
<td>94.9</td>
</tr>
</tbody>
</table>
校の179万6,283㎡（24.6%）、農業5校の168万6,200㎡、工業89校の82万2,587㎡（11.2%）である。農業が5校で広い校地面積となっているのは、広大な実習農場をもつ学校があるためである。専用地、共用地別には医療と家政で共用地面積の占める比率が高い。自己所有地についてみると、合計の場合とはほぼ同様に、農業、医療、家政の3分野の校地面積が広く、それぞれ全体の1/3ずつを占め、合わせて全体となっている。専用地、共用地別には、医療と家政の共用地面積の比率が高い。借用地では、工業21万4,558㎡（29.0%）、医療19万1,783㎡（25.9%）、家政15万7,167㎡（21.3%）が広い。

校舎面積については、総面積355万6,863㎡のうち広いのは、学校数で過半数をしめる家政であり、846校の校舎面積143万5,928㎡で、全面積の40.3%を占めている。ついて文化・教養2校、74万9,116㎡（21.0%）、医療311校60万5,600㎡（17.0%）となっている。専用地、共用地別には分野別に若干の違いがある。自己所有校舎について分野別にみると、合計の場合とほぼ同様に、家政141万3,197㎡（41.7%）をはじめ、文化・教養73万6,929㎡（21.7%）、医療51万1,786㎡（15.1%）となっている。専用地、共用地別には、家政、工業、医療で共用地校舎の占める比率が高く、文化・教養ではごくわずかである。借用校舎で多くを占めるのは医療311校の9万3,814㎡（54.5%）であり、他の分野はわずかにとどまる。農業は借用校舎はなく、衛生、教育・社会福祉、商業実務もわずかである。

（4）分野別1校当たり平均でみた場合

第15表は分野別に校地面積、校舎面積の状況を1校当たり平均で示したものである。まず校地面積についてみると、分野によりかなり大きな差異がみられる。最も校地面積の広いのは、農業の33万7,240㎡であり、これは、広大な実習農場を持つ学校が含まれているためである。ついて工業9,242.5㎡、教育・社会福祉7,189.3㎡、医療6,172.8㎡の順となっている。家政は2,130.8㎡にとどまり、商業実務は1,313.3㎡で最も小さい。専用地、共用地別には、最も広い農業の34万㎡のうち、10万㎡以上は共用地である。医療は共用地が専用地の2倍以上、家政も共用地が専用地を若干上まわっている。他方、文化・教養その他のはほとんどが専用地である。自己所有地では、1校当たり平均3,942.6㎡であり、分野別には大きな違いがある。農業33万7,240㎡最も広く、ついて工業6,831.7㎡、教育・社会福祉6,493㎡となっている。家政、衛生、商業実務はいずれも2,000㎡以下である。借用地は、全体では1校当たり平均443.3㎡とわずかであるが、分野別にみると、工業が広く、2410.7㎡となっており、農業は借用地はみられない。

校舎面積については、校地の場合と比べて、分野別の広さはかなり異なっている。文化・教養の1校当たり平均校舎面積が最も広く8,142.5㎡、ついてと下がって農業3,401.8㎡、工業2,912.4㎡となっている。家政は1,697.3㎡、衛生1,216.8㎡、商業実務1,048.6㎡などが狭い校舎面積である。自己所有・借用校舎別には、全体では95%は自己所有校舎面積であるが、分野別に若干の相違がみられる。医療は借用校舎面積305.5㎡でかなりその比率は高く、農業は借用校舎はなく、家政もごくわずかである。
5. 収支実績

私立専修学校の経営は，毎年度の収入，支出の実態により，明解に把握することができる。第16表と第17表は，私立専修学校の昭和52年度の収支実績について示したものである。

(1) 設置者別収支状況

第16表は，私立専修学校1,637校を設置主体別に区分し，それぞれの収入総額と支出総額，および1学校当たり平均収入，支出を示したものである。

まず全体についてみると，昭和52年度の私立専修学校1,637校の収入総額は，1,245億7,579万円，支出総額1,193億3,584万円，収支の差額は52億3,995万円である。1学校当たり平均収入は7,610万円，平均支出は7,294万円である。各設置主体別に収入総額をみると，最も多いのは学校法人417校の547億7,060万円（43.9%）で，学校法人236校の277億6,820万円（22.2%）で，個人624校の163億8,758万円（13.1%）である。財団法人，社団法人はそれぞれ80億円台である。

支出についても収入の場合とほぼ同様に，学校法人476億円をはじめ，学校法人286億円，個人156億円となっている。収入よりも支出の多い設置者は，その他（15億円の赤字）をはじめ，学校法人，社会福祉法人，医療法人である。1学校当たりの平均収支をみると，設置者別にかなりの差がみられる。平均では収支ともに7,000万円台であるが，収入で最も多いのは学校法人の1億3,134万円をはじめ，学校法人1億1,766万円，その他8,708万円，社団法人，社会福祉法人，宗教法人は6,000万円台，医療法人は3,577万円，個人校が2,626万円となっており，法人校と個人校の間にかなりの違いがある。支出面についてもほぼ同様であるが，最も多いのは学校法人1億2,114万円，準学校法人1億1,450万円，個人は2,505万円である。

(2) 分野別収支状況

第17表は，分野別に収入総額と支出総額，および1学校当たり平均収入，支出を示したものである。まず分野別の収入総額をみると，家庭383校の303億3,695万円（24.1%）をトップに，医療297校の273億8,888万円（21.9%），工業85校177億5,792万円（14.2%），文化・教養84校110億2,210万円（8.8%）等となっている。支出総額については，収入の場合と若干の違いがみられ，収入よりも支出が大幅に上まわっている分野などがあり，最も多いのは医療の333億円（27.8%）で，ついては家庭269億円（22.5%），工業163億円（13.6%）となっている。農業を除き，他の分野では収入が支出を上まわっているが，医療系の学校は，支出が大幅に上まわり，単年度で60億円近くの赤字となっている。

1学校当たり平均収入をみると，その他を別として多いのは，工業の2億892万円をトップに，文化・教養1億3,121万円，教育・社会福祉1億1,779万円で，これらはいずれも規模の大きい学校が主体である。衛生と農業も1億円台である。8分野の中で特に少ないのは家庭の3,606万円であり，小規模が主体である家庭系学校の特徴が，明確に示されている。支出についてもほぼ同様の傾向を示している。
### 第16表 設置者別収支状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>学校数</th>
<th>収入</th>
<th>%</th>
<th>支出</th>
<th>%</th>
<th>差額</th>
<th>1学校当たり平均収入</th>
<th>1学校当たり平均支出</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>法人</td>
<td>417</td>
<td>5,477,060</td>
<td>43.9</td>
<td>4,763,317</td>
<td>39.9</td>
<td>713,743</td>
<td>13,134.4</td>
<td>11,450.2</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>114</td>
<td>836,370</td>
<td>6.7</td>
<td>825,790</td>
<td>6.9</td>
<td>10,580</td>
<td>7,336.5</td>
<td>7,243.7</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>123</td>
<td>831,193</td>
<td>6.6</td>
<td>825,891</td>
<td>6.9</td>
<td>5,302</td>
<td>6,757.6</td>
<td>6,714.5</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>15</td>
<td>101,352</td>
<td>0.8</td>
<td>134,540</td>
<td>1.1</td>
<td>-33,188</td>
<td>6,756.8</td>
<td>8,969.3</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>25</td>
<td>89,427</td>
<td>0.7</td>
<td>111,467</td>
<td>0.9</td>
<td>-22,040</td>
<td>3,577.0</td>
<td>4,458.6</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>36,030</td>
<td>0.2</td>
<td>31,594</td>
<td>0.2</td>
<td>4,436</td>
<td>6,005.0</td>
<td>5,265.6</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>624</td>
<td>1,638,758</td>
<td>13.1</td>
<td>1,560,498</td>
<td>13.0</td>
<td>78,260</td>
<td>2,626.2</td>
<td>2,504.8</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>77</td>
<td>670,569</td>
<td>5.3</td>
<td>821,509</td>
<td>6.8</td>
<td>-150,940</td>
<td>8,708.6</td>
<td>10,532.1</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,637</td>
<td>12,457,579</td>
<td>100.0</td>
<td>11,933,584</td>
<td>100.0</td>
<td>523,995</td>
<td>7,610.0</td>
<td>7,294.3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 第17表 分野別収支状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>学校数</th>
<th>収入</th>
<th>%</th>
<th>支出</th>
<th>%</th>
<th>差額</th>
<th>1学校当たり平均収入</th>
<th>1学校当たり平均支出</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>85</td>
<td>1,775,792</td>
<td>14.2</td>
<td>1,631,499</td>
<td>13.6</td>
<td>144,293</td>
<td>20,891.6</td>
<td>19,194.1</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5</td>
<td>53,451</td>
<td>0.4</td>
<td>57,325</td>
<td>0.4</td>
<td>-3,874</td>
<td>10,690.2</td>
<td>11,465.0</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>297</td>
<td>2,738,888</td>
<td>21.9</td>
<td>3,327,052</td>
<td>27.8</td>
<td>-588,164</td>
<td>9,221.8</td>
<td>11,164.6</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>147</td>
<td>1,509,416</td>
<td>12.1</td>
<td>1,306,078</td>
<td>10.9</td>
<td>203,338</td>
<td>10,268.1</td>
<td>8,884.8</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>42</td>
<td>494,730</td>
<td>3.9</td>
<td>423,783</td>
<td>3.5</td>
<td>70,947</td>
<td>11,779.2</td>
<td>10,090.0</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>104</td>
<td>919,074</td>
<td>7.3</td>
<td>831,969</td>
<td>6.9</td>
<td>87,105</td>
<td>8,837.2</td>
<td>8,077.3</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>833</td>
<td>3,003,695</td>
<td>24.1</td>
<td>2,686,605</td>
<td>22.5</td>
<td>317,090</td>
<td>3,605.8</td>
<td>3,229.0</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>84</td>
<td>1,102,210</td>
<td>8.8</td>
<td>911,817</td>
<td>7.6</td>
<td>190,393</td>
<td>13,121.5</td>
<td>10,854.9</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>40</td>
<td>860,323</td>
<td>6.9</td>
<td>757,456</td>
<td>6.3</td>
<td>102,867</td>
<td>21,508.0</td>
<td>18,936.4</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,637</td>
<td>12,457,579</td>
<td>100.0</td>
<td>11,933,584</td>
<td>100.0</td>
<td>523,995</td>
<td>7,610.0</td>
<td>7,294.3</td>
</tr>
</tbody>
</table>
6. 年間授業時数と授業週数

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>授業時数</td>
<td>週数</td>
<td>授業時数</td>
</tr>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>1,127</td>
<td>38</td>
<td>714</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>1,174</td>
<td>37</td>
<td>748</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>1,143</td>
<td>39</td>
<td>631</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>1,063</td>
<td>42</td>
<td>874</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>1,161</td>
<td>40</td>
<td>699</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>1,223</td>
<td>42</td>
<td>826</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>1,082</td>
<td>38</td>
<td>669</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>1,072</td>
<td>39</td>
<td>643</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>1,254</td>
<td>42</td>
<td>631</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,121</td>
<td>39</td>
<td>685</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>授業時数</td>
<td>週数</td>
<td>授業時数</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>1,253</td>
<td>39</td>
<td>870</td>
</tr>
<tr>
<td>貿易</td>
<td>1,526</td>
<td>39</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>1,139</td>
<td>41</td>
<td>867</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>1,246</td>
<td>39</td>
<td>767</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>1,108</td>
<td>34</td>
<td>781</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>1,082</td>
<td>37</td>
<td>749</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>1,103</td>
<td>39</td>
<td>637</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>1,025</td>
<td>36</td>
<td>667</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,121</td>
<td>39</td>
<td>685</td>
</tr>
</tbody>
</table>

専修学校設置基準によると、各学校が1年間に行う授業時数は、800時間以上（夜間の場合は450時間以上）と定めている。第18表～第20表は、私立専修学校が、現にどの程度の授業を行っているのかを年間授業時数、授業週数として、設置者別、分野別、昼夜別、課程別、学年別に示したものである。

これらの表でみると、まず全体では昼間部の年間平均授業時数1,121時間、授業週数は39週、夜間部はそれぞれ685時間、38週である。このように年間授業週数では、昼、夜間部とも38～39週で同程度であるが、授業時数では当然大きな差異があり、昼間部の授業時数が多い。昼間部では、年間800時間の最低基準より、300時間以上多い実授業時数である。設置者別にはあまり差がみられないが、昼間部では医療法人、その他が1,200時間以上多く、個人、宗教法人、社団法人が1,100時間以下となっている。夜間部では年間授業時数685時間で、最低基準450時間よりも200時間以上多くなっており、社団法人874時間がトップで、準学校法人、学校法人は700時間以上、個
上表 20 表 20 表

<table>
<thead>
<tr>
<th>課 程 名</th>
<th>学 年</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>授 業 時 数</td>
<td>週 数</td>
</tr>
<tr>
<td>専 門</td>
<td>1</td>
<td>1,124</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>1,112</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>1,105</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>1,088</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td>平 均</td>
<td></td>
<td>1,116</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>課 程 名</td>
<td>学 年</td>
<td>昼</td>
<td>夜</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>授 業 時 数</td>
<td>週 数</td>
</tr>
<tr>
<td>高 等</td>
<td>1</td>
<td>1,163</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>1,135</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>1,180</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>1,058</td>
<td>37</td>
</tr>
<tr>
<td>平 均</td>
<td></td>
<td>1,156</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>課 程 名</td>
<td>学 年</td>
<td>昼</td>
<td>夜</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>授 業 時 数</td>
<td>週 数</td>
</tr>
<tr>
<td>一 般</td>
<td>1</td>
<td>1,075</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>1,063</td>
<td>41</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>1,063</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>1,019</td>
<td>41</td>
</tr>
<tr>
<td>平 均</td>
<td></td>
<td>1,066</td>
<td>40</td>
</tr>
</tbody>
</table>

人は 643 時間となっている。授業週数は、昼夜、同一者にそれほど大きな差異はみられないが、医療法人、社団法人の昼間部が 42 週で長く、準学校法人は 38 週、学校法人 37 週、僧人は 38～39 週、社会福祉法人の昼間部は 32 週と短くなっている。

分野別にみると、昼間部の授業時間数は農業が多く、年間 1,526 時間である。農業実習のため、多くの授業時間数が必要とすることにもとづくものである。他の分野については、それほど大きな差異はみられないが、工業 1,253 時間、衛生 1,246 時間が長く、文化・教養 1,025 時間が短い程度で他は 1,100 時間～1,200 時間程度である。授業週数については、教育・社会福祉の 34 週が短い。夜間部の授業時間数は、分野別にかなりの差がある。工業、医療など職業資格取得に関する分野の学校では、規定のカリキュラムに授業時間数を消化する必要から、年間 870 時間程度の時間数となっている。これに対し、衛生、教育・社会福祉、商業実務では 700 時間台、家政と文化・教養など資格に関連のない分野の学校では、600 時間台と短くなっている。

課程別に年間授業時間数をみると、昼夜とも、高等課程がもっとも長く、ついて専門課程、一般課程の順である。学年別には、各課程とも 1 学年の授業時間数が若干長くなっている。昼間部では、高等課程 3 学年の年間授業時間数が 1,180 時間で最も長く、一般課程 4 学年の 1,019 時間が最も短い。夜間部では、高等課程 1 学年の 780 時間が長く、専門課程 4 学年の 500 時間が短い。授業週数では、

— 48 —
課程、学年ともにあまり差異はみられず、昼間部の一般課程が40週で若干長くなっているのである。

7. 年間学費の現状

(1) 年間1人当たり平均学費

私立専修学校に通学するのに要する年間1人当たり平均学費を、設置者別、分野別に示したのが第21表と第22表である。さらに課程別、年間別に示したのが第23表である。学費の費目別内訳については、入学金、授業料、施設拡充費、その他の区分した。

まず全体でみると、1人当たり年間平均学費は、昼間部26万4,117円、夜間部16万5,628円である。昼夜で約10万円程度の差がある。費目別には、授業料が最も多く、昼間部では授業料14万6,873円、ついで入学金7万3,867円、その他3万8,057円、施設費3万6,502円となっている。夜間部では授業料約10万円、入学金4万9,002円、その他2万1,964円、施設拡充費1万9,411円である。これを見ると昼間の方が、昼夜の各費目別を大きく差異がある。昼間部では、準学校法人の学費が最も高く2万4,958円、ついで学校法人2万6万9,104円である。個人は20万3,825円で、準学校法人と比べると年間12万円程度低い。社会福祉法人17万円、社団法人14万円でさらに低くなっている。各費目别には表にみられるとおりであるが、一条校併置の学校法人と、専修学校単独の準学校法人とを比べると、その他の費目ではあまり差はみられないが、授業料、施設費などは準学校法人がそれぞれ2万円程度高くなっている。個人では施設費が特に低額であり、社会福祉法人、社団法人では授業料が安くなっている。昼間部では、医療法人が年額27万円で最も高く、ついで学校法人20万円、準学校法人18万5,141円、個人1万10,9,259円となっており、学校法人は個人の2倍近くになっている。

分野別にみると、学費の差はいっそう著になる。昼間部学費で最も高額なのは工業の37万5,339円であり、ついで文化・教養34万7,761円、衛生33万3,557円、教育・社会福祉30万1,328円など、30万円を超える年間学費である。医療は20万3,832円で、これに比べるとかなり低額であるが、これは医療分野で多くを占める。看護学校の学費が低額なことにとどまっている。学校別では多くを占める家政は17万4,694円、他の分野に比べて低額であり、工学よりも20万円以上安くなっており。なお農業は14万931円と最も低額である。学費の費目別にみると、入学金は工業の12万6,585円をトップに、教育・社会福祉10万8,885円、文化・教養8万4,093円、医療7万9,219円となっており、家政は3万8,072円で最も低額である。医療は学費総額のなかで占める入学金の比率が高く、衛生ではその比率が低くなっており、学費の構成は分野別にかなり違いがみられる。授業料では、文化・教養が19万964円でトップを占め、ついで商業実務、衛生、工業が17万円台、教育・社会福祉が15万円台となっている。農業は6万8,885円で最も低く、学校数で多くを占める家政は12万1,419円、月額1万円の授業料である。施設拡充費では、実習、実験設備等に多くの資金が必要とする工学が最も多く6万6,228円、ついで文化・教養4万7,054円、教育・社会福祉4万6,443円であり、家政は1万8,354円である。その他では、衛生が7万9,845円でトップを占めるが、理美容、調理などの学校で、実習費や教材費等を多く必要とするためである。農業、商業
第21表 設置者別・昼夜別、年間平均学費

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者名</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>入学金</td>
<td>授業料</td>
<td>施設費</td>
</tr>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>91,126</td>
<td>170,711</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>79,574</td>
<td>150,167</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>54,084</td>
<td>154,570</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>39,845</td>
<td>78,567</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>50,885</td>
<td>80,952</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>94,602</td>
<td>123,247</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>84,585</td>
<td>146,774</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>49,175</td>
<td>129,807</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>43,497</td>
<td>75,899</td>
</tr>
<tr>
<td>平均</td>
<td>73,867</td>
<td>146,873</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第22表 分野別・昼夜別、年間平均学費

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>入学金</td>
<td>授業料</td>
<td>施設費</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>126,585</td>
<td>172,034</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>51,421</td>
<td>68,885</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>79,219</td>
<td>103,378</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>44,979</td>
<td>173,404</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>108,885</td>
<td>156,888</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>75,358</td>
<td>177,626</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>38,072</td>
<td>121,419</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>84,093</td>
<td>190,964</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>平均</td>
<td>73,867</td>
<td>146,873</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第23表 課程別・学年別・昼・夜別、年間学費

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>入学金</td>
<td>授業料</td>
</tr>
<tr>
<td>専門</td>
<td>1</td>
<td>86,773</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>6,964</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>1,338</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>169</td>
</tr>
<tr>
<td>平均</td>
<td>95,245</td>
<td>157,167</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>入学金</td>
<td>授業料</td>
</tr>
<tr>
<td>高等</td>
<td>1</td>
<td>35,303</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>4,720</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>2,300</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>89</td>
</tr>
<tr>
<td>平均</td>
<td>42,363</td>
<td>107,588</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>入学金</td>
<td>授業料</td>
</tr>
<tr>
<td>一般</td>
<td>1</td>
<td>33,517</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>540</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>154</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>平均</td>
<td>34,218</td>
<td>138,049</td>
</tr>
</tbody>
</table>
実務、家政では少ない。夜間部についても、昼間部の分野別现状とほぼ同様の傾向を示している。学費総額では、医療の25万4,776 円が最も高く、ついて教育・社会福祉21万3,556 円、工業21万2,953 円、衛生19万5,860 円となっており、家政は8万9,465 円と特に低額である。費目別に入学金からみると、最も多いのは、教育・社会福祉9万1,453 円、ついて工業7万4,610 円である。衛生、商業実務、文化・教養は5万円台、家政は1万5,416円である。授業料は医療の13万2,735円が最も多く、他は家政を除く10万円～11万円台、家政が6万9,758 円と低額である。施設設備費では、医療の4万円、それでは衛生の5万円が高額となっている。

第23表により、課程別、学年別に学費をみると、3課程間かかなりの差異がある。学費総額では、昼間部の専門課程が29万6,975 円、夜間部が27万1,453 円である。専門課程と高等課程とは年額12万円、月額1万円の学費の聞きがはっきりされる。費目別内訳額についても、ほぼ特別部、普通部、高等課程の順となっている。学年別にみると、入学金が1学年で必要になるのに、各課程ずれも、1学年の学費が最も高い。専門課程では、授業料、施設拡充費についても1学年の額が高く、2年、3年に学年が進行するにつれて安くなっている。高等課程では、各学年専門課程までを含めば、1学年は各費目とも2学年以上よりは高い。2学年と3学年とでは、3学年の学費が若干高くなっている。一般課程については同様で、1学年の学費は22万2,988 円であり、ために3学年13万2,389 円、2学年と4学年は11万円台である。

夜間部についても同様で、各課程とも1学年の学費が高い。高等課程で学年間の差異が著しく、専門課程では、大きな聞きはみられない。

(2) 学費総額

昭和53年度の1年間に、この被調査対象となった私立専修学校1,692校に在校する生徒が支払った学費総額を、設置者別、分野別に示したのが第24表と第25表である。

これらによってみると、私立専修学校の年間学費総額は806億7,190万9,261 円である。昼夜別には、昼間部が約700億円であるのに対し、夜間部は100億円以上である。費目別には、入学金が昼間部113億円、夜間部16億円で、合わせて129億円、授業料は昼間部389億円、夜間部64億円、計453億円、施設拡充費は、昼間部97億円、夜間部12億円で、計109億円、その他は昼間部101億円、夜間部14億円、計115億円である。設置者別には、各費目、昼夜ともに、最も多いのは単学校法人、ついて学校法人、個人となっている。分野別には、昼夜の合計でみると、入学金が、工業40億円で最も多く、ついて医療20億円、商業実務、家政、文化・教養がそれぞれ16～17億円台、教育・社会福祉7億7,000万円である。授業料では家政119億円が最も多く、ついて工業87億円、医療、衛生、商業実務、文化・教養がいずれも50億円～60億円程度である。施設拡充費も工業が32億円で最も多く、医療、衛生、商業実務、家政、文化・教養が10億円台である。

なお、私立専修学校の収入総額はさきにもみるように1,246億であり、そのうち学費収入総額は807億円で、65%を占めている。その次に439億円（35%）は、学費以外の収入であり、最も近くが学費収入に依存しているといえる。しかし、この調査結果が示しているように、私立専修学校の財政状況は、予想どおり、多くを生徒からの学費収入に依存して運営されているとはいえ、事業収入等の他の収入もかなりの割合を占めており、各分野、各学校ごとに、専修学校調査の特長を生
### 第24表 設置者別、年間総学費

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者名</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>入学金</th>
<th>授業料</th>
<th>厚生施設費</th>
<th>その他</th>
<th>総合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>6,244,181,500</td>
<td>19,357,361,500</td>
<td>5,838,779,880</td>
<td>5,407,415,370</td>
<td>36,847,738,250</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>2,381,500,000</td>
<td>8,284,767,800</td>
<td>1,809,372,000</td>
<td>2,370,846,600</td>
<td>14,846,486,400</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>491,628,572</td>
<td>2,258,270,392</td>
<td>433,052,324</td>
<td>411,520,573</td>
<td>3,594,471,861</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>344,062,000</td>
<td>1,345,777,000</td>
<td>399,572,000</td>
<td>303,464,700</td>
<td>2,392,875,700</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>34,093,000</td>
<td>116,329,000</td>
<td>37,556,000</td>
<td>61,551,000</td>
<td>249,529,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>111,252,000</td>
<td>315,390,000</td>
<td>79,820,000</td>
<td>76,708,000</td>
<td>583,170,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>20,385,000</td>
<td>65,608,000</td>
<td>14,193,000</td>
<td>5,502,000</td>
<td>105,688,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>1,443,978,600</td>
<td>6,264,012,100</td>
<td>927,108,800</td>
<td>1,200,727,500</td>
<td>9,385,827,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>236,238,500</td>
<td>907,453,600</td>
<td>132,209,000</td>
<td>245,908,500</td>
<td>1,523,807,600</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>11,309,317,172</td>
<td>38,914,969,392</td>
<td>9,671,663,004</td>
<td>10,083,644,243</td>
<td>69,979,593,811</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者名</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>入学金</th>
<th>授業料</th>
<th>厚生施設費</th>
<th>その他</th>
<th>総合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>739,299,000</td>
<td>2,453,495,900</td>
<td>549,444,700</td>
<td>609,690,800</td>
<td>4,351,930,400</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>467,364,000</td>
<td>1,640,909,700</td>
<td>345,368,200</td>
<td>352,220,100</td>
<td>2,805,862,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>62,719,400</td>
<td>377,225,300</td>
<td>92,880,000</td>
<td>51,783,000</td>
<td>584,607,700</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>103,456,000</td>
<td>363,878,000</td>
<td>109,400,000</td>
<td>107,344,200</td>
<td>684,078,200</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>9,584,000</td>
<td>53,787,000</td>
<td>9,101,000</td>
<td>24,780,000</td>
<td>97,252,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>29,000,000</td>
<td>101,252,000</td>
<td>12,700,000</td>
<td>38,105,000</td>
<td>181,057,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>882,000</td>
<td>9,060,000</td>
<td>232,000</td>
<td>710,000</td>
<td>10,888,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>201,865,800</td>
<td>1,326,158,300</td>
<td>129,596,200</td>
<td>225,903,950</td>
<td>1,883,524,250</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>9,634,000</td>
<td>69,733,200</td>
<td>6,368,000</td>
<td>7,384,700</td>
<td>93,119,900</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,623,804,200</td>
<td>6,395,499,400</td>
<td>1,255,090,100</td>
<td>1,417,921,750</td>
<td>10,692,315,450</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 第24表 設置者別、昼・夜学費

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者名</th>
<th>昼</th>
<th>夜</th>
<th>入学金</th>
<th>授業料</th>
<th>厚生施設費</th>
<th>その他</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>6,983,480,500</td>
<td>21,810,857,400</td>
<td>6,388,224,580</td>
<td>6,017,105,170</td>
<td>41,199,668,650</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>2,848,864,000</td>
<td>9,925,677,500</td>
<td>2,154,740,200</td>
<td>2,723,065,700</td>
<td>17,652,348,400</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>554,347,972</td>
<td>2,635,495,692</td>
<td>525,932,324</td>
<td>463,303,573</td>
<td>3,076,953,900</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>447,518,000</td>
<td>1,709,655,000</td>
<td>508,972,000</td>
<td>410,808,900</td>
<td>3,076,953,900</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>43,677,000</td>
<td>170,116,000</td>
<td>46,657,000</td>
<td>86,331,000</td>
<td>346,781,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>140,252,000</td>
<td>416,642,000</td>
<td>92,520,000</td>
<td>114,813,000</td>
<td>764,227,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>21,267,000</td>
<td>74,657,000</td>
<td>14,425,000</td>
<td>6,212,000</td>
<td>116,572,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>1,645,844,400</td>
<td>7,590,170,400</td>
<td>1,056,705,000</td>
<td>1,426,631,450</td>
<td>11,719,351,250</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>247,870,500</td>
<td>977,186,800</td>
<td>101,252,000</td>
<td>253,293,200</td>
<td>1,616,927,500</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>12,933,121,372</td>
<td>45,310,468,792</td>
<td>10,926,753,104</td>
<td>11,501,565,993</td>
<td>80,671,909,261</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
第25表 分野別，年間総学費

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>入学金</th>
<th>授業料</th>
<th>厚生施設費</th>
<th>その他</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>3,561,215,980</td>
<td>7,654,141,732</td>
<td>2,946,644,140</td>
<td>2,537,607,299</td>
<td>16,699,609,151</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>10,130,000</td>
<td>25,212,000</td>
<td>7,650,000</td>
<td>8,589,000</td>
<td>51,581,000</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>1,521,338,000</td>
<td>4,413,840,600</td>
<td>1,203,107,200</td>
<td>1,564,529,100</td>
<td>8,702,814,900</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>973,040,192</td>
<td>4,138,654,160</td>
<td>943,656,784</td>
<td>1,905,674,424</td>
<td>7,961,025,560</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>594,190,000</td>
<td>1,750,875,600</td>
<td>518,311,000</td>
<td>499,445,600</td>
<td>3,362,822,200</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>1,573,681,000</td>
<td>5,408,811,000</td>
<td>1,199,935,680</td>
<td>690,709,680</td>
<td>14,695,107,640</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>1,465,848,500</td>
<td>10,213,660,300</td>
<td>1,543,998,200</td>
<td>1,471,600,640</td>
<td>14,695,107,640</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>1,645,873,500</td>
<td>3,099,774,000</td>
<td>1,308,360,000</td>
<td>1,405,488,500</td>
<td>9,669,496,000</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>11,309,317,172</td>
<td>38,914,969,392</td>
<td>9,671,663,004</td>
<td>10,083,644,243</td>
<td>69,979,593,811</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>入学金</th>
<th>授業料</th>
<th>厚生施設費</th>
<th>その他</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>413,265,000</td>
<td>1,047,878,500</td>
<td>230,988,500</td>
<td>251,711,000</td>
<td>1,943,843,000</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>512,650,000</td>
<td>1,404,606,700</td>
<td>422,720,000</td>
<td>355,966,700</td>
<td>2,695,943,400</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>149,640,400</td>
<td>775,957,300</td>
<td>143,227,700</td>
<td>366,243,950</td>
<td>1,435,069,350</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>175,500,000</td>
<td>597,999,600</td>
<td>143,954,000</td>
<td>147,978,300</td>
<td>1,065,431,900</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>65,529,000</td>
<td>233,659,000</td>
<td>25,922,000</td>
<td>28,645,200</td>
<td>353,755,200</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>182,582,800</td>
<td>1,712,424,300</td>
<td>148,852,800</td>
<td>152,233,100</td>
<td>2,196,193,100</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>124,637,000</td>
<td>622,974,000</td>
<td>139,425,000</td>
<td>115,043,500</td>
<td>1,002,079,500</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,623,804,200</td>
<td>6,395,499,400</td>
<td>1,417,921,750</td>
<td>1,092,315,450</td>
<td>10,692,315,450</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野名</th>
<th>入学金</th>
<th>授業料</th>
<th>厚生施設費</th>
<th>その他</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>3,974,450,980</td>
<td>8,702,020,232</td>
<td>3,177,632,640</td>
<td>2,789,318,299</td>
<td>18,643,452,151</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>10,130,000</td>
<td>25,212,000</td>
<td>7,650,000</td>
<td>8,589,000</td>
<td>51,581,000</td>
</tr>
<tr>
<td>医療</td>
<td>2,033,988,000</td>
<td>5,818,447,300</td>
<td>1,625,827,200</td>
<td>1,920,495,800</td>
<td>11,398,758,300</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>1,122,680,592</td>
<td>4,914,611,460</td>
<td>1,086,884,484</td>
<td>2,271,918,374</td>
<td>9,396,094,910</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>769,690,000</td>
<td>2,348,875,200</td>
<td>662,265,000</td>
<td>647,423,900</td>
<td>4,428,254,100</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>1,603,210,000</td>
<td>5,642,470,000</td>
<td>1,225,854,300</td>
<td>719,354,880</td>
<td>9,190,892,560</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>1,648,431,300</td>
<td>11,926,084,600</td>
<td>1,692,851,100</td>
<td>1,623,933,740</td>
<td>16,891,304,200</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>1,770,510,500</td>
<td>5,932,748,000</td>
<td>1,447,785,000</td>
<td>1,520,532,000</td>
<td>10,671,575,500</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>12,933,121,372</td>
<td>45,310,468,792</td>
<td>10,926,753,104</td>
<td>11,501,565,993</td>
<td>80,671,909,261</td>
</tr>
</tbody>
</table>
かれた財源調達の方法と、経営努力がなされていることをよく示している。しかし他面では、専修学校経営に要する財源、経費を、生徒からの納付金だけではまかなうことができず、拮抗の程度を他からの財源調達に見出さなければならないという事情は、今日の私立専修学校経営の苦境を物語るものであり、この調査結果の数字が雄弁に物語るように、今後の私立専修学校経営に対する、公共財源からの助成が必要不可欠であることを結論づけているといえよう。

8. 教育諸条件の指標

私立専修学校の教育環境、教育諸条件は、毎日の教育が行われる施設設備や、教員数、生徒数とその関連などによってとらえることができる。教育条件の数値的指標として、生徒1人当たり校地、校舎面積、教員1人当たり生徒数、1学校当たり平均教員数、生徒数などの学校規模に関することが知られる。これらについて設置者別、分野別に示したのが第26表と第27表である。

設置者別に教育条件をみると、1学校当たり平均専任教員数では、学校法人10.8人、準学校法人10.6人で多く、他の法人は5人〜7人台である。個人法人で、小規模校が多いため専任教員数も少なく4.4人である。1学校当たり平均生徒数は、学校規模を端的に示すものであるが、私立専修学校全校の平均は195人であり、設置者別にはかなりの違いがみられる。準学校法人が最も多く320人、ついて学校法人282人、他の法人は120〜170人程度であり、宗教法人と個人がそれぞれ101人と小規模である。教育効果を左右する主要な指標として、専任教員1人当たり生徒数をみると、準学校法人が30.1人で最も多く、ついて社団法人26.2人、学校法人26.1人である。これらに対し、個人立修学校は18.8人で少ない。この指標についてみる限り、学校規模とは順序が逆になっており、個人立修学校のほうが教育条件は良いといえよう。施設面の教育条件としても、生徒1人当たり校地面積についてみると、全体では22.1㎡であるが、設置者によりかなりの格差がある。一条校との併置校である学校法人立修学校が最も広く、62.2㎡となっており、最もせいまい個人立修学校の6.1㎡の10倍以上となっている。校地面積の広さについて、両者間にいかに大きな格差があるかということが如実に示されている。その他の法人学校も10㎡から30㎡程度であるが、専修学校を単独に設置する準学校法人では7.6㎡となっており、個人よりも若干広い程度であり、この点についてみる限り校地面積の広さは、専修学校の場合、法人か個人かというよりも、一条校併置かどうかという点で、大きな問題が見られる現状である。生徒1人当たり校舎面積は全体では10.8㎡、設置者別に最も広いのは、学校法人の29.5㎡である。ついて社会福祉法人13.7㎡。その他11.9㎡、他は10㎡以下である。準学校法人4.9㎡と個人4.6㎡の間にほんの差が見える。なお参考までに、専修学校設置基準による、生徒1人当たり、校地、校舎面積では、校地は校舎保有を要する面積であり、校舎面積は定員100人の場合3.5㎡以上、定員400人の場合2.6㎡以上である。これらは最低基準と比べてみると、各設置者ともときに上まわっているが、個人立修学校の1学校当たり平均校舎面積が4.6㎡であるのは、最低基準を若干上まわる程度である。施設設備の面で余裕のない現状を示すものといえよう。さらに短大の場合についてみると、学生1人当たり最低校舎面積は、定員100人の場合、16.0㎡、400人の場合7.1㎡となっており、多くの専修学校は、短大の基準には達していない現状を示している。
### 第26表 設置者別教育諸条件

<table>
<thead>
<tr>
<th>設置者別</th>
<th>学校数</th>
<th>専任教員数</th>
<th>生徒数</th>
<th>1校当たり平均専任教員数</th>
<th>1校当たり平均生徒数</th>
<th>専任教員1人当たり生徒数</th>
<th>生徒1人当たり校地面積</th>
<th>生徒1人当たり校舎面積</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>準学校法人</td>
<td>428</td>
<td>4,541</td>
<td>136,898</td>
<td>10.6</td>
<td>320</td>
<td>30.1</td>
<td>7.6</td>
<td>4.9</td>
</tr>
<tr>
<td>学校法人</td>
<td>245</td>
<td>2,646</td>
<td>69,115</td>
<td>10.8</td>
<td>282</td>
<td>26.1</td>
<td>62.2</td>
<td>29.5</td>
</tr>
<tr>
<td>財団法人</td>
<td>114</td>
<td>894</td>
<td>17,970</td>
<td>7.8</td>
<td>158</td>
<td>20.1</td>
<td>11.2</td>
<td>8.1</td>
</tr>
<tr>
<td>社団法人</td>
<td>125</td>
<td>792</td>
<td>20,790</td>
<td>6.3</td>
<td>166</td>
<td>26.2</td>
<td>10.0</td>
<td>8.0</td>
</tr>
<tr>
<td>社会福祉法人</td>
<td>17</td>
<td>91</td>
<td>2,122</td>
<td>5.4</td>
<td>125</td>
<td>23.1</td>
<td>35.3</td>
<td>13.7</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人</td>
<td>27</td>
<td>165</td>
<td>3,232</td>
<td>6.1</td>
<td>120</td>
<td>19.6</td>
<td>17.4</td>
<td>9.0</td>
</tr>
<tr>
<td>宗教法人</td>
<td>6</td>
<td>45</td>
<td>606</td>
<td>7.5</td>
<td>101</td>
<td>13.5</td>
<td>10.3</td>
<td>6.0</td>
</tr>
<tr>
<td>個人</td>
<td>647</td>
<td>3,480</td>
<td>65,495</td>
<td>5.4</td>
<td>101</td>
<td>18.8</td>
<td>6.1</td>
<td>4.6</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>83</td>
<td>732</td>
<td>13,284</td>
<td>8.8</td>
<td>160</td>
<td>18.1</td>
<td>76.0</td>
<td>11.9</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>13,386</td>
<td>329,512</td>
<td>7.9</td>
<td>195</td>
<td>24.5</td>
<td>22.1</td>
<td>10.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 第27表 分野別教育諸条件

<table>
<thead>
<tr>
<th>分野別</th>
<th>学校数</th>
<th>専任教員数</th>
<th>生徒数</th>
<th>1校当たり平均専任教員数</th>
<th>1校当たり平均生徒数</th>
<th>専任教員1人当たり生徒数</th>
<th>生徒1人当たり校地面積</th>
<th>生徒1人当たり校舎面積</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>工業</td>
<td>91</td>
<td>1,356</td>
<td>53,620</td>
<td>14.9</td>
<td>589</td>
<td>39.6</td>
<td>15.3</td>
<td>4.9</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5</td>
<td>35</td>
<td>366</td>
<td>7.0</td>
<td>73</td>
<td>10.5</td>
<td>4,607.1</td>
<td>46.5</td>
</tr>
<tr>
<td>看護</td>
<td>311</td>
<td>2,132</td>
<td>53,278</td>
<td>6.8</td>
<td>171</td>
<td>25.0</td>
<td>34.6</td>
<td>11.4</td>
</tr>
<tr>
<td>衛生</td>
<td>155</td>
<td>1,246</td>
<td>31,194</td>
<td>8.0</td>
<td>201</td>
<td>25.0</td>
<td>9.8</td>
<td>6.0</td>
</tr>
<tr>
<td>教育・社会福祉</td>
<td>43</td>
<td>504</td>
<td>16,149</td>
<td>11.7</td>
<td>376</td>
<td>32.0</td>
<td>19.1</td>
<td>5.5</td>
</tr>
<tr>
<td>商業実務</td>
<td>108</td>
<td>851</td>
<td>32,733</td>
<td>7.9</td>
<td>303</td>
<td>38.5</td>
<td>4.3</td>
<td>3.4</td>
</tr>
<tr>
<td>家政</td>
<td>847</td>
<td>5,679</td>
<td>108,667</td>
<td>6.7</td>
<td>128</td>
<td>19.2</td>
<td>16.5</td>
<td>13.2</td>
</tr>
<tr>
<td>文化・教養</td>
<td>92</td>
<td>950</td>
<td>33,505</td>
<td>10.3</td>
<td>364</td>
<td>35.3</td>
<td>8.3</td>
<td>22.4</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>40</td>
<td>645</td>
<td>—</td>
<td>16.1</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>13,398</td>
<td>329,512</td>
<td>7.9</td>
<td>195</td>
<td>24.5</td>
<td>22.1</td>
<td>10.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>
分野別の教育条件について、まず1校当たり平均専任教員数では、その他を除き、工業が14.9人
で最も多く、ついで教育・社会福祉11.7人、文化・教養10.3人である。他は、6～8人程度である。
1校当たり平均生徒数では工業が最も多く589人、ついで教育・社会福祉376人、文化・教養364
人である。農業は73人で少ないが、学校数で多くを占める家政は128人、医療171人などは小規模
校が多いことを示している。専任教員1人当たり生徒数は、分野によってかなり大きな違いがみら
れ、1校当たり平均生徒数が多い分野ほど多くなっている。工業39.6人、商業実務38.5人で40人に
近く、ついで文化・教養35.3人、教育・社会福祉32.0人である。これらに対し、医療と衛生では
25.0人、家政19.2人、農業10.3人であり、教員1人当たり生徒数についてみる限り、小規模校の多
い分野の学校の教育条件が良好である。施設面について、生徒1人当たり校地面積をみると、分野
による違いは大きい。広大な校地を有する農業の4,607.1m²は例外として、医療の34.6m²も広いほ
うである。教育・社会福祉19.1m²、家政16.5m²、工業15.3m²の順となっている。商業実務は4.3m²
で最も狭い。生徒1人当たり校舎面積で、最も広いのは農業46.5m²、ついで文化・教養22.4m²で
あり、かなり下がって家政13.2m²である。これらに対し、狭いのは学校規模の大きい分野の学校で、
教育・社会福祉5.5m²、工業4.9m²、商業実務はわずかに3.4m²を占めるにすぎず、最低の設置基
準をみたす程度である。
<table>
<thead>
<tr>
<th>都道府県名</th>
<th>学校数</th>
<th>教員数</th>
<th>生徒数</th>
<th>預任</th>
<th>兼任</th>
<th>合計</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>100</td>
<td>674</td>
<td>1,045</td>
<td>1,719</td>
<td>3,972</td>
<td>11,117</td>
<td>15,089</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>32</td>
<td>199</td>
<td>205</td>
<td>404</td>
<td>360</td>
<td>3,318</td>
<td>3,678</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮城県</td>
<td>23</td>
<td>135</td>
<td>399</td>
<td>534</td>
<td>53</td>
<td>1,950</td>
<td>2,003</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>秋田県</td>
<td>41</td>
<td>333</td>
<td>382</td>
<td>715</td>
<td>2,486</td>
<td>5,647</td>
<td>8,133</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>山形県</td>
<td>35</td>
<td>210</td>
<td>391</td>
<td>601</td>
<td>1,137</td>
<td>3,281</td>
<td>4,438</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福島県</td>
<td>26</td>
<td>188</td>
<td>237</td>
<td>425</td>
<td>280</td>
<td>2,987</td>
<td>3,267</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>茨城県</td>
<td>33</td>
<td>224</td>
<td>288</td>
<td>512</td>
<td>662</td>
<td>3,484</td>
<td>4,146</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>千葉県</td>
<td>39</td>
<td>200</td>
<td>354</td>
<td>454</td>
<td>182</td>
<td>3,523</td>
<td>3,705</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>埼玉県</td>
<td>34</td>
<td>192</td>
<td>319</td>
<td>511</td>
<td>835</td>
<td>3,642</td>
<td>4,477</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>東京都</td>
<td>51</td>
<td>528</td>
<td>1,069</td>
<td>1,533</td>
<td>4,711</td>
<td>6,548</td>
<td>11,019</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>神奈川県</td>
<td>40</td>
<td>267</td>
<td>364</td>
<td>631</td>
<td>765</td>
<td>4,286</td>
<td>5,051</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>富山県</td>
<td>27</td>
<td>162</td>
<td>331</td>
<td>493</td>
<td>457</td>
<td>2,565</td>
<td>3,022</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>石川県</td>
<td>11</td>
<td>48</td>
<td>110</td>
<td>158</td>
<td>82</td>
<td>840</td>
<td>922</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福井県</td>
<td>11</td>
<td>62</td>
<td>164</td>
<td>226</td>
<td>238</td>
<td>812</td>
<td>1,340</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長野県</td>
<td>10</td>
<td>54</td>
<td>85</td>
<td>139</td>
<td>347</td>
<td>754</td>
<td>1,131</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>茨城県</td>
<td>25</td>
<td>138</td>
<td>225</td>
<td>363</td>
<td>153</td>
<td>2,141</td>
<td>2,294</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>愛知県</td>
<td>17</td>
<td>165</td>
<td>178</td>
<td>343</td>
<td>817</td>
<td>2,810</td>
<td>3,627</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>愛知県</td>
<td>45</td>
<td>309</td>
<td>361</td>
<td>767</td>
<td>1,087</td>
<td>7,306</td>
<td>8,393</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岐阜県</td>
<td>196</td>
<td>1,004</td>
<td>1,515</td>
<td>2,519</td>
<td>10,636</td>
<td>15,661</td>
<td>26,297</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三重県</td>
<td>17</td>
<td>155</td>
<td>179</td>
<td>334</td>
<td>371</td>
<td>2,194</td>
<td>2,565</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>京都府</td>
<td>29</td>
<td>231</td>
<td>802</td>
<td>1,033</td>
<td>1,770</td>
<td>3,144</td>
<td>4,914</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大阪府</td>
<td>99</td>
<td>947</td>
<td>2,279</td>
<td>3,226</td>
<td>14,261</td>
<td>16,476</td>
<td>30,737</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>兵庫県</td>
<td>39</td>
<td>329</td>
<td>874</td>
<td>1,203</td>
<td>2,191</td>
<td>6,347</td>
<td>8,538</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>奈良県</td>
<td>19</td>
<td>153</td>
<td>257</td>
<td>411</td>
<td>100</td>
<td>2,087</td>
<td>2,187</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>和歌山県</td>
<td>14</td>
<td>58</td>
<td>123</td>
<td>181</td>
<td>100</td>
<td>742</td>
<td>842</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鳥取県</td>
<td>18</td>
<td>78</td>
<td>234</td>
<td>312</td>
<td>127</td>
<td>1,055</td>
<td>1,182</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岡山県</td>
<td>8</td>
<td>32</td>
<td>67</td>
<td>99</td>
<td>89</td>
<td>490</td>
<td>579</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>広島県</td>
<td>31</td>
<td>176</td>
<td>607</td>
<td>783</td>
<td>238</td>
<td>2,856</td>
<td>3,094</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>山口県</td>
<td>56</td>
<td>369</td>
<td>553</td>
<td>922</td>
<td>946</td>
<td>6,369</td>
<td>7,315</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>徳島県</td>
<td>21</td>
<td>113</td>
<td>447</td>
<td>560</td>
<td>190</td>
<td>2,393</td>
<td>2,583</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>愛媛県</td>
<td>11</td>
<td>62</td>
<td>64</td>
<td>126</td>
<td>127</td>
<td>815</td>
<td>942</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>高知県</td>
<td>33</td>
<td>154</td>
<td>161</td>
<td>315</td>
<td>320</td>
<td>2,772</td>
<td>3,092</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福岡県</td>
<td>16</td>
<td>78</td>
<td>96</td>
<td>174</td>
<td>101</td>
<td>936</td>
<td>1,037</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>群馬県</td>
<td>87</td>
<td>596</td>
<td>1,613</td>
<td>2,209</td>
<td>5,904</td>
<td>9,286</td>
<td>15,190</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>佐賀県</td>
<td>19</td>
<td>106</td>
<td>484</td>
<td>590</td>
<td>767</td>
<td>1,686</td>
<td>2,453</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長崎県</td>
<td>20</td>
<td>93</td>
<td>74</td>
<td>167</td>
<td>199</td>
<td>1,206</td>
<td>1,405</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>熊本県</td>
<td>32</td>
<td>221</td>
<td>662</td>
<td>883</td>
<td>2,004</td>
<td>3,290</td>
<td>5,294</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮崎県</td>
<td>18</td>
<td>103</td>
<td>357</td>
<td>460</td>
<td>163</td>
<td>2,186</td>
<td>2,349</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鹿児島県</td>
<td>7</td>
<td>46</td>
<td>23</td>
<td>69</td>
<td>20</td>
<td>743</td>
<td>763</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,692</td>
<td>13,398</td>
<td>25,090</td>
<td>38,488</td>
<td>108,205</td>
<td>221,307</td>
<td>329,512</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>